

令和8年度～令和10年度

地域農業戦略Ⅸ

変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり



グリーン近江農業協同組合



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

令和8年度～10年度

地域農業戦略Ⅸ

変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり

経営理念

私たちは、**人と自然**とのかかわりを大切にし、
食を守り**地域**に愛される **JA グリーン近江**をめざします。

J Aグリーン近江の事業にご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

私たちの地域農業は、水田農業を基盤とし、畜産農業とも連携しながら、農産物の生産だけでなく、環境保全や地域コミュニティの維持に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、近年は気候変動の影響による高温や天候不順、病虫害被害の増加、農業者の高齢化や担い手不足、資材価格の高騰など、農業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。こうした状況を踏まえ、次期「第9次地域農業戦略」（2026～2028年度）では、現場に即した取り組みを重視し、将来を見据えた持続可能な農業の構築を目指してまいります。

高温耐性品種の導入や肥培管理の改善、スマート農業技術の活用をすすめるとともに、後継者対策など担い手経営体への支援を強化します。また、環境にこだわり農業による特別栽培米など、本地域ならではの環境保全型農業を積極的に発信し、消費者との信頼関係を深め、付加価値の創出につなげていきます。

第9次地域農業戦略（2026～2028年度）では、「気候変動への対応」「特産品目の生産振興」「販路開拓とブランド化」「省力化・スマート農業」「持続可能な地域農業」「農的関係人口の拡大」を柱として掲げ、組合員の皆さまとともに具体的な行動に移してまいります。

今後とも本戦略へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年6月

グリーン近江農業協同組合

代表理事組合長 大林 茂松

目次

第9次地域農業戦略 ビジョン・基本方針……………	1	戦略7：スマート農業の導入による生産性向上と省力化 ……	20
第8次地域農業戦略の取り組み成果……………	2	省力化と収量・品質確保の両立に向けたチャレンジ	
戦略1：営農指導の充実……………	8	戦略8：担い手育成・労働力確保……………	22
環境変化への適応と生産性向上に向けたチャレンジ		地域農業の後継者対策にチャレンジ	
戦略2：米の安定生産・販売……………	10	戦略9：子会社の役割発揮……………	24
高温耐性品種の作付拡大に合わせた品種集約にチャレンジ		地域農業のサポートにチャレンジ	
戦略3：施設運営体制の強化……………	12	戦略10：地域農業をささえる購買事業 ……	26
次代へつなぐ施設運営にチャレンジ		指導購買の高度化にチャレンジ	
戦略4：畑作物の生産振興……………	14	戦略11：地域連携と食育増進 ……	27
特産のさらなる生産振興にチャレンジ		農的関係人口の増大にチャレンジ	
戦略5：酪農・畜産振興……………	16	行政との連携と目指す姿……………	28
酪農・畜産の生産性と収益性向上にチャレンジ		アクションプラン（各営農振興センター行動計画） ……	30
戦略6：販路開拓とブランド化……………	18		
新たな販路開拓やブランド化にチャレンジ			

JA 自己改革基本目標

農家組合員の
所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

—— コミュニケーション ——

地域・組合員・JAの相互理解により
力を結集して現状打破・現状変化を果たしましょう！

～新たな挑戦に踏み出す3カ年～



○気候変動対応

安心して米づくりを続けられる環境整備
異常気象に対応した栽培の在り方を確立、発信

○特産品目の生産振興

多様な作物と販路で所得の安定化
地域の特性を活かした特産・畜産品目の生産拡大への対応強化

○販路開拓とブランド化

環境にこだわり農業やオーガニックなどのさらなるレベルアップ
きてか～なを基軸とした地域振興作物の面積拡大

○持続可能な地域農業

担い手育成・労働力確保に向けた取り組み
地域農業活性化支援事業などによる中山間地や青年農業者支援

○省力化・スマート農業

ドローンやザルビオを活用した生産性向上技術の検証と推進
地域に合った直播技術の導入推進

○農的関係人口の拡大

農村 RMO など地域農業の魅力向上や女性参画取り組み支援
准組合員参加型イベント、消費者交流イベントの取り組み

地域農業戦略Ⅸ

変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり

地域農業戦略Ⅷの取り組み成果

第8次地域農業戦略では、「組合員とともに、持続可能な地域農業づくり」をテーマに「農家組合員の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」をはじめとする不断のJA自己改革の実践として農業生産力の向上、生産基盤体制の強化、農的関係人口の拡充に取り組みました。

農業生産力の向上



「近江米」の高温対策技術の普及推進

課題となっている「**猛暑**」に対応するため土づくりや緑肥、水管理、気候変動に対応した**水稻栽培技術の普及推進**や**現地指導、研修**に取り組みました。しかしながら、令和7年産米で1等米比率が著しく低下したことをうけ、**令和8年産以降は「猛暑に打ち勝つ8大対策」や「耐暑肥の施用」の普及定着に加え、高温耐性品種への転換を推進**する取り組みを行ってまいります。

省力化・スマート農業の推進

省力化に向け**直播資材「リゾケア」を提案**。令和7年産米で55haの取り組みが行われました。また、スマート農業では、「**ドローン防除**」や「**ITほ場管理**」のほか、有機栽培の生産性向上に向けた「**除草ロボットの導入**」、水管理の効率化を図る「**自動給水装置**」の普及に取り組みました。

特色ある米づくりの展開

「**きらみずき**」を中心に「**有機JAS米**」の生産に取り組み、令和7年において**JAグリーン近江オーガニック研究会で4名が有機JAS認証を取得**しました。また、いち早く近江米を消費者に届ける「**早期みずかがみ**」の取り組みや猛暑を逆手にとった「**再生二期作**」などにも取り組みました。

園芸品目の生産振興

滋賀県のいちご品種「**みおしずく**」の作付け普及拡大に取り組み増加傾向にあります。花卉分野では、「**短茎小菊**」のほか、近年では「**ユーカリ**」の栽培も拡大しました。「**加工業務用キャベツ**」及び「**加工業務用タマネギ**」の生産者35経営体が、**JGAP認証**を取得し、消費者や取引先からの信頼向上に繋がりました。一方で、高齢化や後継者不足により特産品目の生産者が減少し、作付面積の縮小が課題となっています。また、**近年の猛暑や少雨による生育不良により、生産量や品質の低下も懸念されています**。今後は、これらの課題に対応した生産体制の強化や、担い手の確保・育成が重要となります。

令和5年度～7年度 組合員とともに、持続可能な地域農業づくり

生産基盤体制の強化



農的関係人口の拡充



「ファーマーズマーケットきてか〜な」店舗増設

令和7年度、農山漁村発イノベーション整備事業を活用し「**ファーマーズマーケットきてか〜な**」の増設工事に取り組みました。増設部分は、補助事業の要件である、**若手農業者の農産品や旬の農産品、贈答品コーナーとして活用**し、既存部分も併せてより一層の付加価値の創造につなげてまいります。
売場面積約800㎡(既存約600㎡ 今回増設約200㎡)

近江八幡市 津田干拓地果樹団地の整備完了

令和5年度から3カ年で取り組んだ**近江八幡市 津田干拓地果樹団地(ぶどう4.0ha、なし3.5ha)の整備が完了**しました。今後、生産者のご尽力のもと、**ツダカジュ「淡海ぶどう」**、「**淡海なし**」のブランドで取り組まれJAも一緒になって生産支援と販売に取り組んでまいります。



国営農地再編整備事業「東近江地区」

東近江市八日市地区では、国直轄によるほ場整備事業が進められています。令和8年2月には柏木町において起工式が執り行われました。今後、農地の大区画化等の工事が順次行われ、新たな農地では水田転作野菜等の生産拡大が計画されています。JAとしても体制整備をすすめ、行政と連携して生産振興対策に取り組んでまいります。

政所製茶工場の機械更新

老朽化が進んでいた、**政所製茶工場について、東近江市の支援による機械更新の見通しが立ちました**。近年の緑茶ブームから、概ね1年遅延することとなりましたが、**令和9年産の稼働から新法人への運営委託をはじめ、持続可能な製茶工場の稼働がスタート**します。

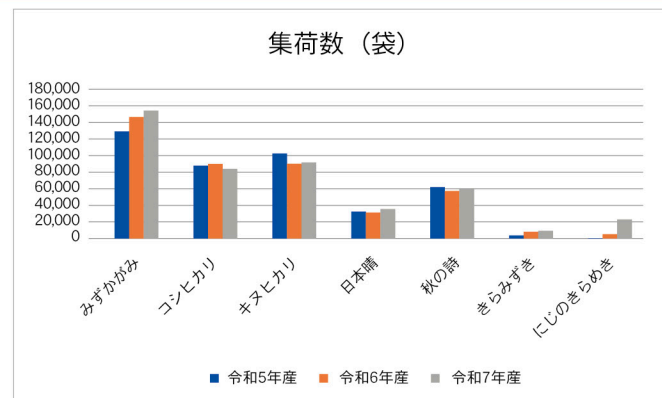
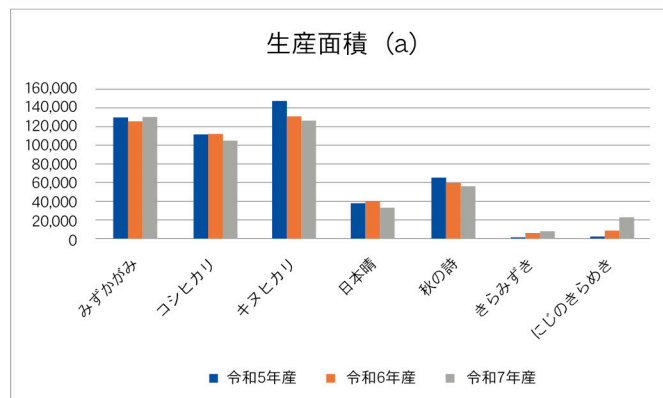
農的関係人口の拡充

「**ファーマーズマーケットきてか〜な**」や「**日野農産物加工施設**」において、**中学生の職場体験や大学生の体験実習を受け入れ**農作物への興味や販売・生産の大切さを取り組みを通じて感じてもらう農業への興味を持つきっかけ作りや「**きてか〜な**」にて**周年祭や秋祭りを実施し幅広く生産者との繋がりを持つ機会の創出**を行っています。
また、取引先である「**生協の組合員**」を対象に**産地研修会の受け入れなど消費者との交流を深める活動**に取り組みました。

地域農業戦略Ⅷの取り組み成果

営農実態（3カ年の推移）

① 水稻の品種別生産面積と1等米比率・JA集荷数【JA出荷】

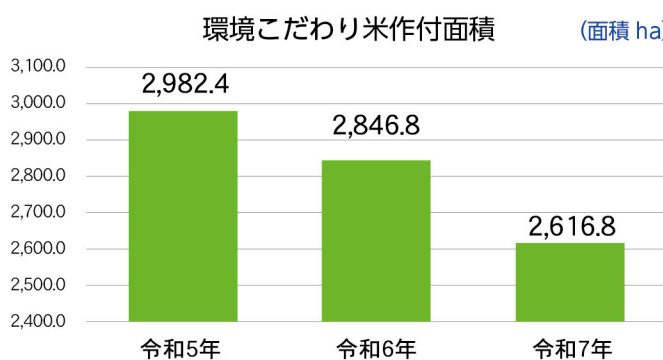


一等米比率 (単位: %)

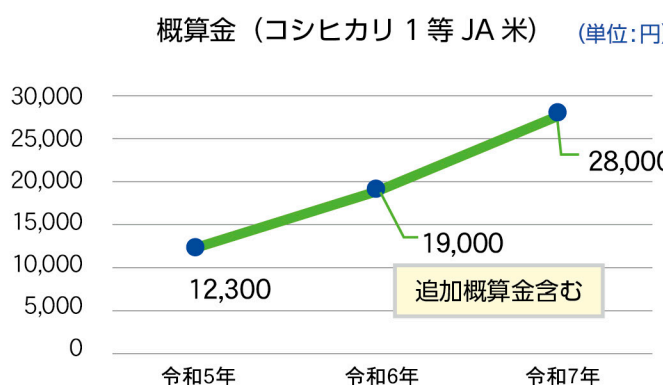
品種	令和5年度	令和6年度	令和7年度
コシヒカリ	47	53	17
キヌヒカリ	38	45	14
日本晴	45	52	6
秋の詩	44	49	11
みずかがみ	89	85	52
きらみずき	86	85	49
にじのきらめき	61	69	30

高温耐性品種がこの3年間で少しずつ増加しました。高温耐性品種は、どの年でも1等米比率が高い結果となりました。さらなる高温耐性品種への切り替えが必要となっています。一方で、猛暑の影響によって令和7年産では高温耐性品種でも非常に厳しい結果となりました。

② 環境こだわり米、有機JAS米の取り組み



③ 米価

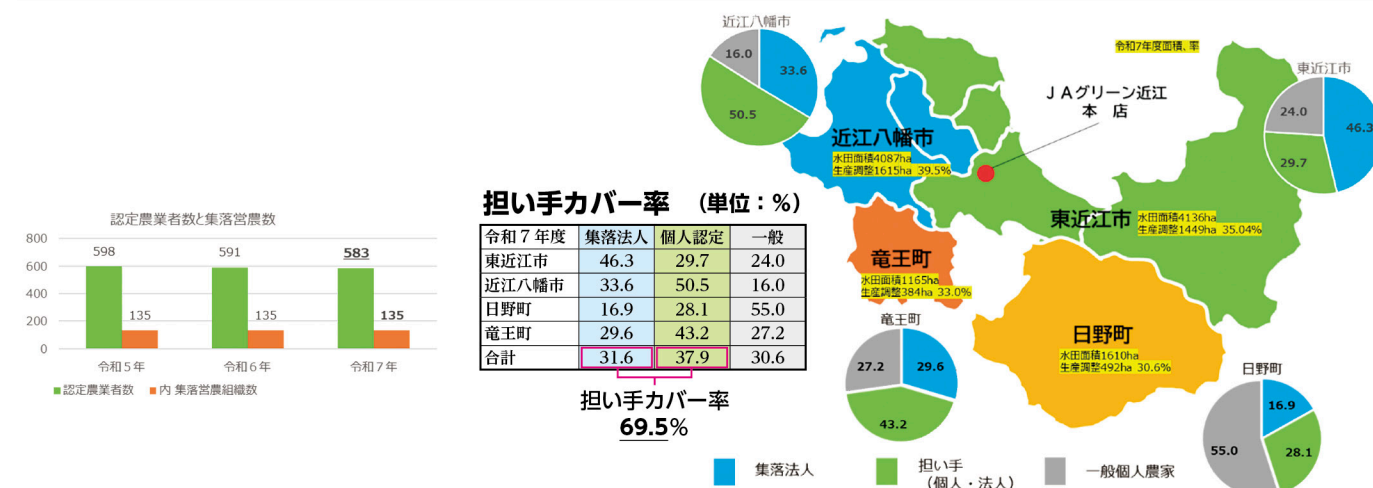


有機JAS米の生産面積は取り組み3年目で増加した一方、近年の労働力不足や異常気象への対応などから、環境こだわり米の面積は減少しており、環境こだわり米の面積確保が課題となっています。

米価については、令和5年産米の全国的な不作が尾を引く形で、令和6年産米で需給が逼迫したことを受け、令和7年産米ではさらに米価が高騰しました。政府備蓄米の放出や増産などによって供給過剰も想定されるなか、生産コストが賄える持続可能な再生産可能価格を保持していくことが今後の課題となっています。

令和5年度～7年度 組合員とともに、持続可能な地域農業づくり

④ 管内の担い手状況



JAへの産米出荷申出者の集計では、平均年齢がほぼ横ばいであった一方で、生産者数は減少しました。引き続き、大規模経営体へ集約がすすむ傾向となっております。また、担い手や集落法人においても、高齢化や後継者不足、出役要員不足がすすんでおり課題となっています。

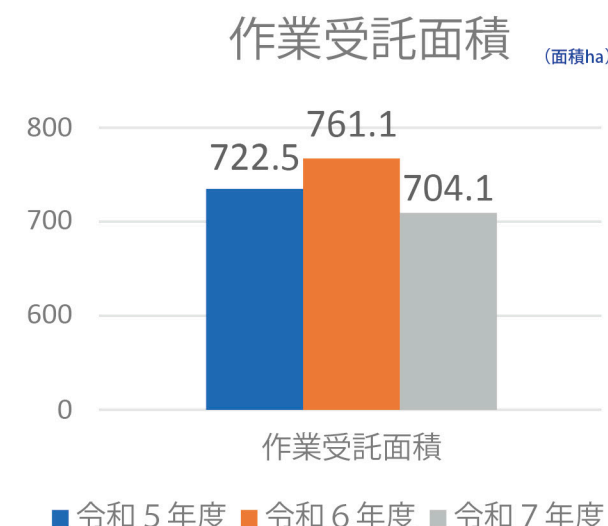
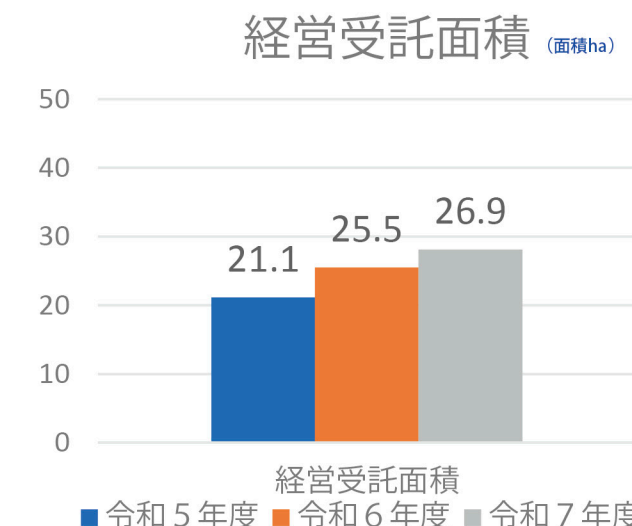
後継者の確保育成が課題となるなか、「地域計画」の策定を機会に捉え、集落法人の連携や新たな農地集積、構成員の再編が議論されるケースも出てきました。こうした取り組みを先進事例として他地区への横展開が求められています。

⑤ JA子会社株式会社グリーンサポート楽農



JA子会社株式会社グリーンサポート楽農では、これまでの農作業受託に加え、集落単位の「地域計画」をもとに農地中間管理機構を介した農地の経営受託を行っています。

経営規模に合わせ機械の増強や要員の確保などが課題となっています。



地域農業戦略Ⅷの取り組み成果

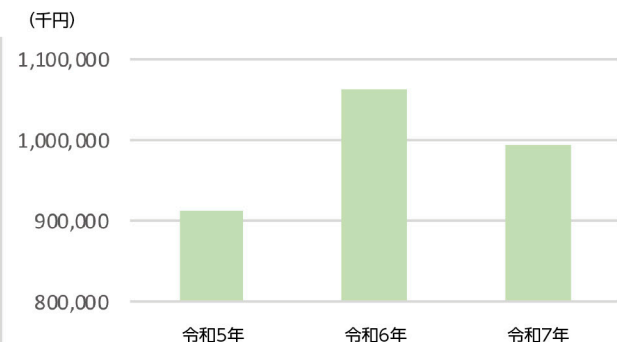
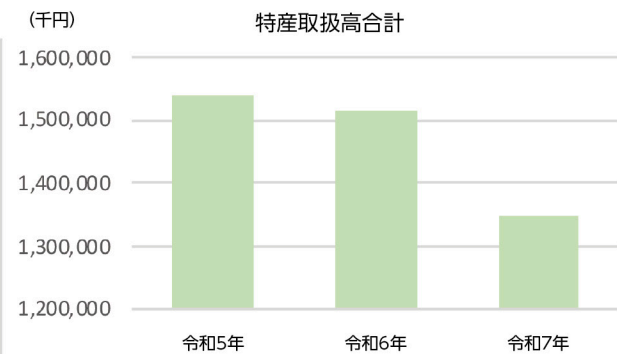
営農実態（3カ年の推移）

⑥園芸品目の生産面積、取扱高

管内農地を活用した多様な特産品が生産されています。品目によっては、生産面積が減少傾向にあります。また、近年の不安定な気象から全国的に収穫量が増減することなどを背景に取引価格が乱高下した3年間であります。

特産	令和5年度	令和6年度	令和7年度
野菜	900,211	1,004,047	886,667
花卉	71,781	78,795	55,613
黒大豆	339,943	213,934	243,668
その他	227,921	219,876	162,584
合計	1,539,856	1,516,652	1,348,532

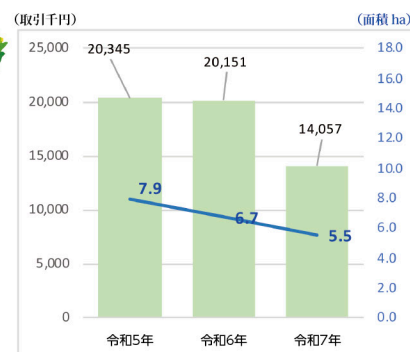
きてか～な	令和5年度	令和6年度	令和7年度
委託品	722,423	791,519	757,479
買取品	134,230	209,533	176,700
加工品	56,322	60,329	60,149
合計	912,975	1,061,381	994,328



JA 統一品目

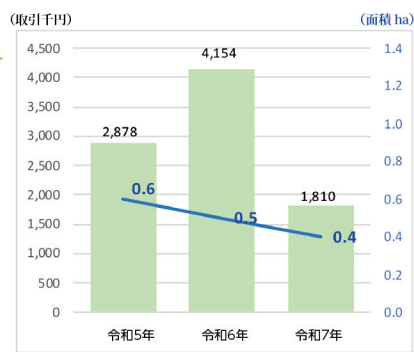
花菜

花菜は特色ある品目として需要が高まっています。生産面積は減少で推移しました。



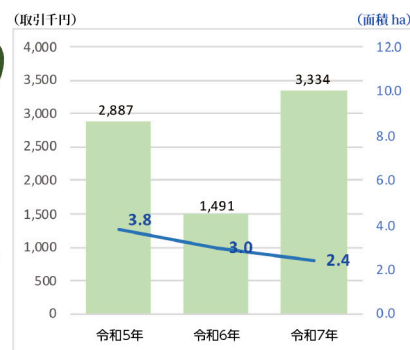
実えんどう

実えんどうも高収益作物品目の一つですが、面積が減少しています。相場の変動がありますが単価が高いのが特徴です。



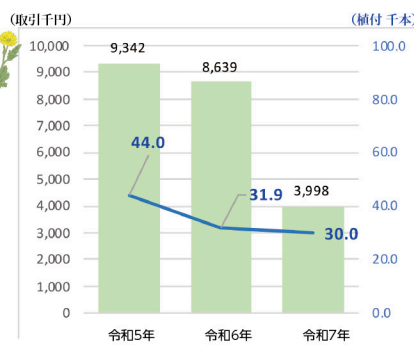
カボチャ

近江のカボチャとして市場などで高い評価を受ける一方で生産面積が減少傾向にあります。



小菊

水田を活用した小菊生産として、なにわ花いちばなどに出荷し高い評価を受けている品目です。

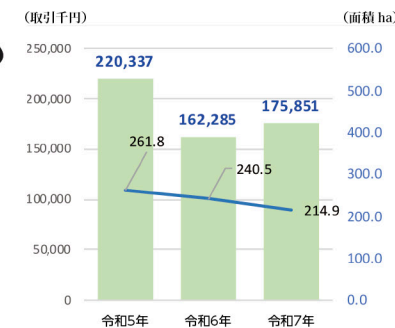


令和5年度～7年度 組合員とともに、持続可能な地域農業づくり

JA 特産品目

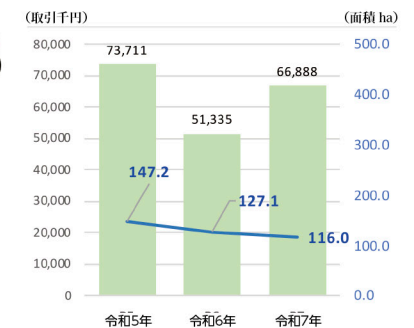
丹波黒

丹波黒に関して需要は安定しております。夏から秋にかけて高温少雨の気象により、収量が減少しており、生産拡大を求められています。



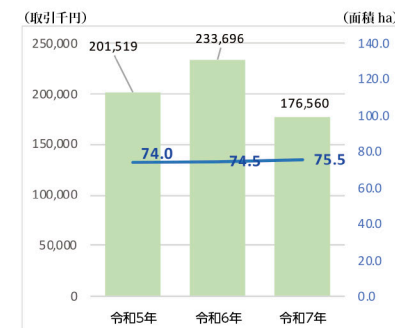
早生黒

早生黒についても、夏場から秋にかけての高温少雨の気象により、悪い作柄が続いているため、安定生産を求められています。



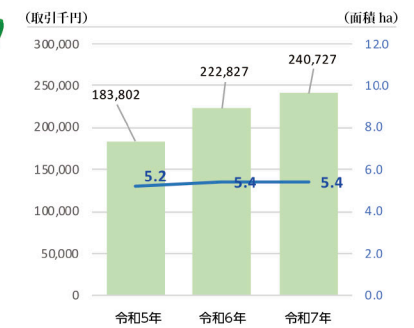
キャベツ

加工業務用、市場出荷など、水田を活用したキャベツ生産については、75ha程度の生産が維持されました。



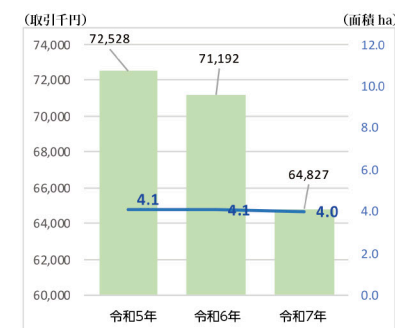
キュウリ

キュウリは販売高は2.2億円を誇る高収益品目です。施設栽培を中心に品質の高いキュウリを生産し、市場出荷を通じて安定した評価を得ています。



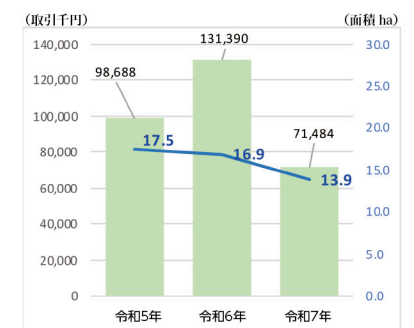
トマト

管内では、大中地域を中心に生産されています。ミディトマト、ミニトマトなど品種ごとに安定生産が求められる品目です。



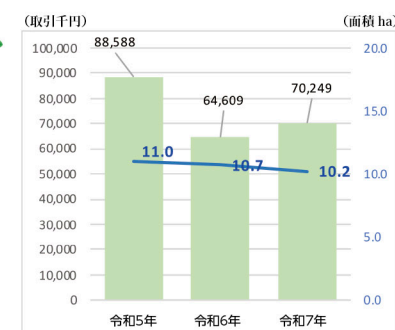
白菜

夏季から秋季の高温が生育障害を招きました。周年安定供給を目指している品目です。八日市地域を中心に生産が盛んです。



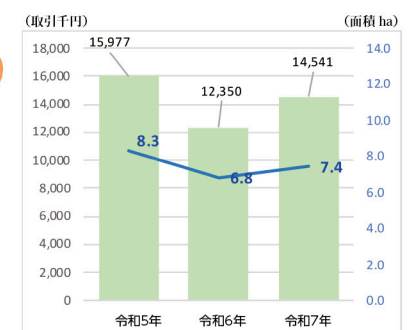
白ネギ

安土「安土信長葱」、八日市「近江太郎坊天狗葱」、日野「わたむきねぎ」をはじめ地域特色を活かした生産がすすんでいます。



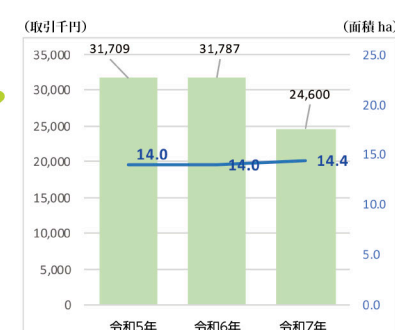
タマネギ

加工業務用や市場出荷など水田を活用したタマネギ生産が拡大傾向にあります。



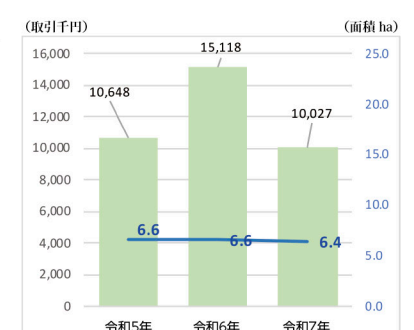
ブロッコリー

水田の高度利用として注目されており、米作と畑作を組み合わせた生産体系にブロッコリーを組み込む動きが進行中。直売所等でも人気の品目です。



ニンジン

八日市地域を中心に生産拡大が進んでいます。栽培期間が比較的短く、機械化も進んでおり、取り組み始めやすい品目です。



戦略1 営農指導の充実

1-1 生産性向上向け高温耐性品種への転換を提案します

近年の気候変動により、夏場の高温や降雨の偏り、さらには病害虫の発生など、農業を取り巻く環境は大きく変化しています。これまでと同じ栽培方法だけでは、安定した収量や品質を確保することが難しくなっているのが現状です。

このため**本戦略では**、高温による品質低下に強い品種の導入をすすめるとともに、猛暑に負けない肥培管理や栽培技術の普及に取り組み、生産性の向上と持続可能な水田農業の実現を目指します。あわせて、作業の省力化や負担軽減につながるスマート農業技術の活用を進め、無理のない農業経営を支えていきます。

また、品種の転換については、**急激な変更を求めるのではなく**、年度ごとのスケジュールや目安を示しながら、生産者の皆様が安心して取り組めるよう段階的に誘導してまいります。気候変動という避けられない課題に正面から向き合い、将来にわたって安定した農業が続けられる体制づくりに、JAと生産者が一体となってチャレンジしていきます。

気候変動による高温・降雨不順や病害虫被害に対して、**高温耐性品種の導入や猛暑に打ち克つ肥培管理技術、スマート農業の普及**によって生産性向上と持続可能な水田農業を実現します。品種転換にはスケジュールを示して生産者の誘導を行います。



品種転換は、販売対策と合わせて「**水稻栽培ガイドライン**」等で生産者の皆様にご提案いたします。

高温耐性品種作付強化拡大 面積目標

	7年産	8年産	9年産	10年産
みずかがみ	1,300	1,400	1,500	1,600
にじのきらめき	130	480	550	600
きらみずき	77	90	130	200
滋賀82号（ことさんさん）	0	1	50	300
合 計	1,507	1,971	2,230	2,700



詳細は、毎年発行する水稻栽培ガイドラインを参照ください

環境変化への適応と生産性向上に向けたチャレンジ

1- 2 猛暑に打ち克つ米づくりを推進します

猛暑に打ち克つ米づくり 8大対策

①米づくりの基本は土づくり

●収量・品質向上対策

- ・稲の養分吸収を担っているのは根です。収量・品質は、根の活力によって左右されます。
- ・根の力を最大限に引き出すためには、**土づくりが重要**です。
- ・土づくりを徹底することで、気候変動にも強い稲を育てることができます。



②秋期の鋤き込み（秋耕）

●還元障害対策

- ・有機物を分解する土壌微生物は気温が高い環境下で活動が活発化します。「稲刈り後1か月以内」を目標に秋耕を行いましょう。
- ・ロータリーの回転は「ゆっくり」、深さは「浅く」秋耕を行いましょう。
- ・秋耕の前には、「土づくり資材」を散布しましょう。土づくり資材に含まれるアルカリ分は、稲わらの分解を助ける効果もあります。秋に稲わらを分解することで、**翌年のガス湧き対策（還元障害対策）にもなります。**



③春期の鋤き込み（春耕）

●倒伏軽減対策
●品質向上対策

- ・春耕は「ゆっくり深く」耕起することで稲の根域拡大倒伏軽減効果も期待できます。
- ・理想の耕起の深さは15センチ程度です。



④田植えは晴天日に

●植え痛み対策
●分けつ確保

- ・活着を良くするため、慌てず好天日に行う
- ・田植え後の深水管理は、苗の低温保護・除草剤の安定効果となりますが、**過度な深水管理は分けつを妨げます。**



⑤箱施用剤の確実な施薬

●収量・品質向上対策

- ・「いもち病」や「ウンカ（イネ葉枯病）」は減収の原因となるので、必ず規定量の箱施用剤を施薬する。
- ・ウンカ類に対して効果の高い成分「トリフルメジピリム」「オキサゾスルフィル」「フルピリミン」を含む箱施用剤を使用する。



⑥田植え後の水管理

●分けつ確保
●収量向上対策

- ・除草剤散布後1週間は落水、かけ流しをせず、田面を露出しない程度の水深を保ち、分けつ確保に努める。
- ・特に「みずかがみ」は初期生育が緩慢なため、**分けつ確保が収量に直結します。**

⑦過度な中干しは厳禁

●収量・品質向上対策

- ・晴天が続く場合は大きなひび割れが出来る前に「**差し水**」（環境保全型農業直接支払交付金で「長期中干し」を選択した場合でも「**差し水**」は可）

⑧病害虫防除・畦畔除草の徹底

●収量・品質向上対策

- ・カメムシ、ウンカを呼び込まない為に畦畔除草の徹底。
- ・畦畔除草を徹底する事で、風通しが良くなり「いもち病」予防となります。
- ・吸汁能力の高い「イネカメムシ」「ミナミアオカメムシ」は斑点米、減収の原因となる為、**多発時は2回防除を行う。**



高 吸汁能力
↑
低

ミナミアオカメムシ・イネカメムシ
クモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ
トゲシラホシカメムシ
アカスジカスミカメ

最新の肥培技術は「**水稻栽培ガイドライン**」や別チラシ、SNS、WEB等で生産者の皆様にご提案いたします。

気候変動対策に向けた営農指導

◎**土壌診断による土づくり相談の強化を行います**
*専門知識のある営農経済職員の増強

◎**葉色に応じた“耐暑肥”施用の普及を行います**
*全農や子会社と連携したドローン追肥の取り組み

◎**地力増進効果が期待できる緑肥の実証に取り組みます**
*堆肥散布の難しい地域などでソルガム、セสบアニア等

◎**労力削減資材の普及推進に取り組みます**
*流し込み施肥や堆肥入り土壌改良資材等

<みどりの食料システム法の基本方針における基本的な取組>



環境保全型農業の推進、みどりチェックや、みどり認定のグループ申請、GAPの指導などにも取り組みます。

戦略2 米の安定生産・販売

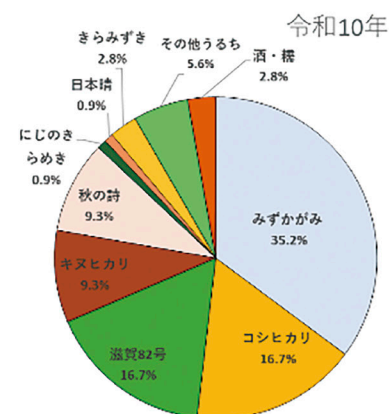
2-1 高温耐性品種の生産にあわせた有利販売に取り組みます

高温耐性品種の生産拡大に応じた「JAグリーン近江米」の有利販売に取り組みます。引き続き、実需者との「結びつき（契約）」を重視した「生産者の期待に応える多様な販売」をすすめるため生産者とJAの契約を重視した取り組みを推進します。また、米穀販売事業は水田農業の所得確保のかなめと位置づけJAグループ一丸となって「再生産可能価格の維持継続」に取り組みます。

	品 種	販売方針
高温耐性品種	み ず か が み	近江米のメジャー品種として安定した品質と収量で高評価を得ており、契約を重視した有利販売につなげる。
	き ら み ゑ き	新しい近江米品種として認知度上昇中。地元直売所や県内外生協を中心に販売を展開。
	滋 賀 8 2 号 (ことさんさん)	命名やブランド戦略を踏まえ、新品種としての価値を前面に押し出した有利販売の展開に取り組む。
	に じ の き ら め き	契約栽培を中心に安定した品質と収量を武器に販売につなげる。
従来品種	コ シ ヒ カ リ	全国銘柄として安定した需要がある。品質と生産量の安定を図り引き続き有利販売に取り組む。
	秋 の 詩	量販店や生協との結びつきによる需要を活かした販売に取り組む。
	キ ヌ ヒ カ リ	主に業務用等の需要があるため、品種転換による生産状況を踏まえ他品種への転換を提案する
	日 本 晴	主に業務用等の需要があるため、品種転換による生産状況を踏まえ他品種への転換を提案する

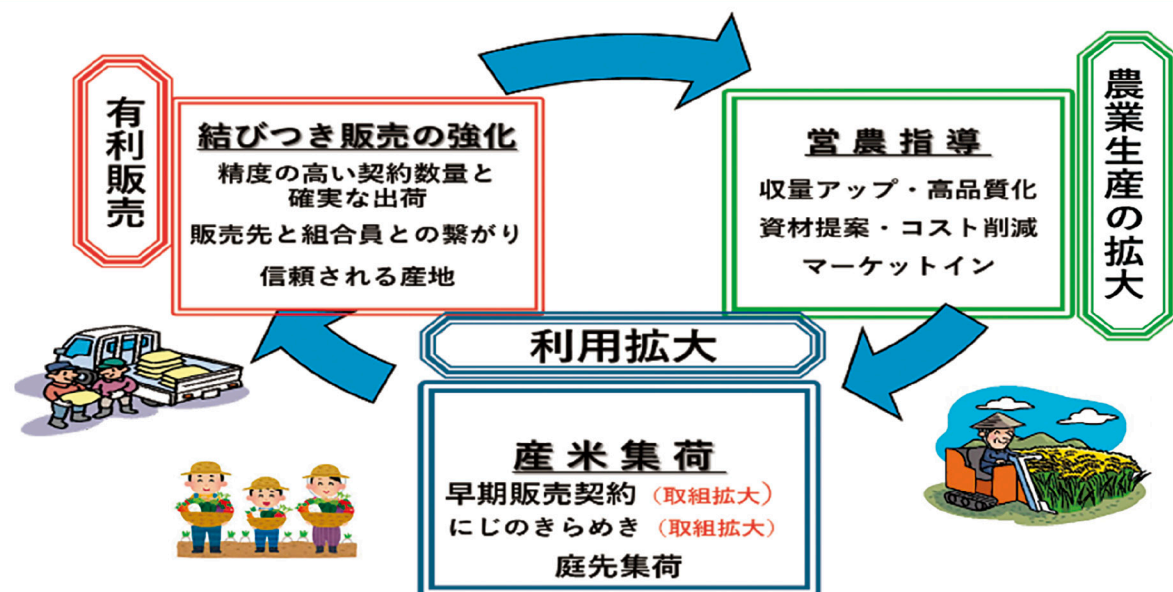
販売と結びついた
3カ年集荷目標

54万袋



2-2 営農指導と一体となった集荷販売対策に取り組みます

実需者の需要に応じた数量・品質に応えられる産地を目指すため、**営農指導による収量品質の改善**と取り組み内容を拡大した早期販売契約により、「**精度の高い数量の早期結びつけ**」を行い有利販売に繋げてまいります。



高温耐性品種の作付拡大に合わせた品種集約にチャレンジ

2-3 多様な結びつき販売による安定生産・安定販売の取り組み

直接販売とJAグループ組織力を活かした**多様な販売に取り組み「再生産可能価格の維持継続」**に繋がります。また、生活協同組合をはじめ、**取引先との「結びつき」強化**によって生産者と消費者の交流を深め「**再生産可能価格の理解増進**」や「**近江米の消費拡大**」に繋がってまいります。

生産者の期待に応える多様な販売



JA 集荷拡大に向けた PDCA

- 分析作業と推進対象者の抽出『P（Plan）』
 - ・生産者毎の生産状況を把握し、出荷契約数量の積上げ
 - ・令和7年産のスクラム契約・早期販売契約の実績把握
- 訪問活動（接点活動・営農指導）の実施『D（Do）』
 - ・営農指導を活かした接点活動を実施
 - ・多様な集荷・精算手法を活かした集荷の提案
 - 【早期販売契約】・【地域独自の取り組み：例 大中 早期出荷米：みずかがみ】
- 課題と対応策の協議『C（Check）』
 - ・営農振興センターを中心にTACと情報共有、課題整理及び分析
 - ・RPの対応策の整理
- フォロー推進『A（Act）』
 - ・課題、対応策を速やかに実行
 - ・生産者への提案

推進（確認）対象者：

- ・JA利用の高い生産者
- ・前年産実績が大きく減少した生産者・出荷申出比（前年）の低い（無い）生産者
- ・各地域の農地集積先の大規模生産者



戦略3 施設運営体制の強化

3-1 次代につなぐ共同利用施設の運営に取り組みます

補助事業を活用した老朽化施設の改修

国の補助事業（新基本計画実装・農業構造転換支援事業）を活用した**老朽化施設の改善に取り組み持続可能な施設運営**を目指します。

- 補助事業内容（令和7年～9年度）※一部抜粋
- ・色彩選別機更新（大中CE・日野CE）
 - ・乾燥設備更新（大中CE・環境CE・上羽田RC・市原RC）
 - ・集塵設備更新（上羽田RC）
 - ・育苗センター播種ライン更新（西部育苗C）

※令和10年度以降の改修についても次代を見据えた更新・修繕を実施します。



安全・安心、組合員の期待に応える共同利用施設運営

老朽化による修繕更新箇所の増加、資材費の高騰から毎年修繕保守費用が上昇しており、現状のままでは組合員の期待に応える安心安全な施設運営を維持できません。

利用者の負担を極力抑えることを念頭に経費削減に努め、**「持続可能な運営体制の構築」**に向けた**「施設再編」**や**「収益構造の改善」**など、次代を見据えた施設運営を行います。



次代を見据えた運営

修繕・投資

安心・安全

組合員の声

利便性確保

運営基盤の強化

○安全・安心
組合員に安全、安心にご利用いただける施設を目指します。

○修繕・投資
次代へつなぐ計画的な修繕・投資を行います。

○組合員の声
組合員の声を反映できる運営方法を検討します。

○利便性確保
利便性を確保した新たな荷受体制を構築します。

○運営基盤の強化
施設の有効利用を図り、経営資源の効果的な活用を行います。収支改善に取り組み、安定した運営が継続できる体制を構築します。

次代へつなぐ施設運営にチャレンジ

3-2 気候変動への対応に取り組みます

米施設利用量 10,000t
麦施設利用量 9,600t
白大豆施設利用量 1,300t

米施設の運営では、**高温耐性品種への転換状況に応じて取り扱い品種の変更**に取り組み、品質の高い施設米の対応を行います。

【転換に向けたイメージ図】

米施設対応

←取扱予定量

取扱品種	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
みずかがみ				
高温耐性品種 (候補①：滋賀82号) (ことさんさん)		一部施設	一部施設	
コシヒカリ				
キヌヒカリ				
日本晴			取扱量に応じた荷受体制の検討	取扱量に応じた荷受体制の検討
秋の詩				
にじのきらめき (契約栽培)	一部施設	一部施設	販売戦略に応じた荷受体制の検討	販売戦略に応じた荷受体制の検討
きらみずき				取組状況に応じた荷受体制の検討

水稻苗供給枚数 **31万箱**

水稻苗の供給においても**高温耐性品種の生産状況に応じた取り扱い品種の変更**を実施します。

育苗センター対応

取扱品種	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
みずかがみ	○	○	○	○
高温耐性品種 (候補：滋賀82号) (ことさんさん)	× 取扱無し	△ 発芽苗限定	○	○
コシヒカリ	○	○	○	○
キヌヒカリ	○	○	△ 発芽苗限定	
日本晴	○	○		
秋の詩	○	○		
にじのきらめき (契約栽培)	△ 発芽苗限定	△ 発芽苗限定	再検討	再検討
きらみずき	△ 発芽苗限定	△ 発芽苗限定	△ 発芽苗限定	

※状況に応じて田植時期、枚数、苗種等に制限を設けます。

戦略4 畑作物の生産振興

4-1 需要に応じた麦類の生産推進と将来の品種転換の検討に取り組みます

需要に応じた麦類の生産と品種転換の検討

小麦「びわほなみ」については、実需者からは製粉性や二次加工適性が良好との評価を受けており、**継続的な生産を望まれています**。一方で、赤かび病発生防止のための複数回の防除作業や穂発芽耐性についても他品種と同様の懸念があることから、赤かび病、穂発芽に耐性のある品種改良が望まれています。将来的に、代替品種や**「改良版びわほなみ」の普及の目処が立った段階で転換を検討**します。



また、品種転換までの期間においては、肥培管理技術の見直しや営農指導に取り組み、**麦類全体で実需者の需要に応じた播種前契約と確実な作付けを推進**します。さらに、並行して有望麦品種の試験・実証に取り組みます。

4-2 白大豆多収性品種の導入に向けた実証に取り組みます

白大豆多収性品種導入に向けた実証

気候変動による高温・降雨不順や病虫害被害に対して、難裂莢性、葉焼病抵抗性の**白大豆多収性品種**（そらみずき、そらみのり、そらたかくなど）の導入に向けた実証に取り組んでまいります。

*各品種とも栽培適地の外縁部にあたりJA管内での適正を確認し**1品種を選定**します。

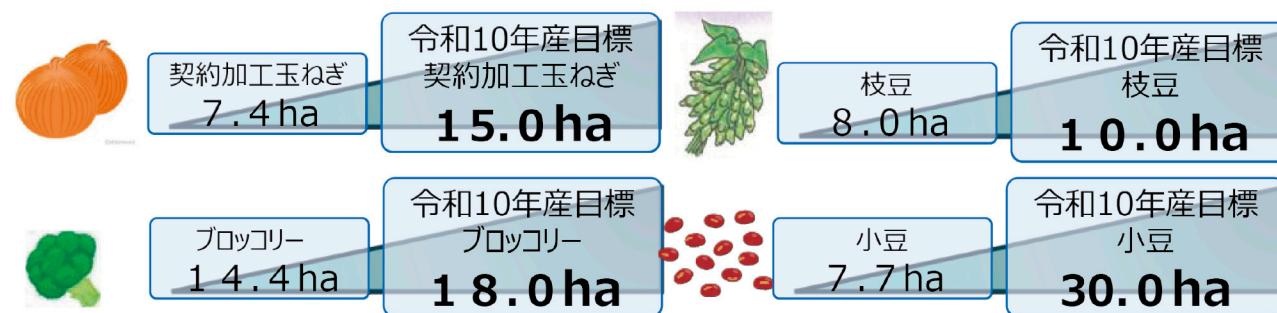
「そらシリーズ」栽培適地



4-3 園芸品目の産地としてステップアップに取り組みます

特産品目の生産振興

地域の特性や特色を活かした特産品目の生産拡大を目指し統一部会品目や地域部会品目の**生産拡大・生産者確保・生産技術向上**に関係機関と連携して取り組みます。また、特産品目においても、**気候変動や病虫害に対応できる肥培管理技術や防除体系の確立・普及**に取り組んでまいります。



特産のさらなる生産振興にチャレンジ

4-4 産地の基盤強化に取り組みます

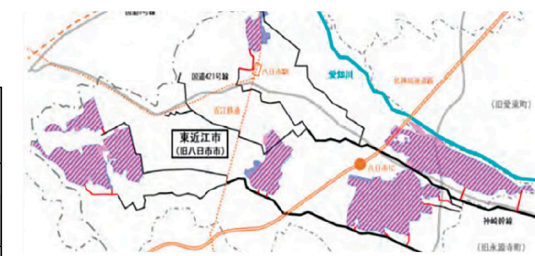
国営農地再編整備事業「東近江地区」にともなう集出荷拠点整備

東近江市八日市地区において国直轄によるほ場整備事業が令和7年度に着工し、令和20年度末の完了を目標に、約680haのほ場整備が行われます。同事業によって整備された大区画農地では、水田転作野菜等の生産拡大が進むことから、生産状況に合わせた施設整備に取り組んでまいります。また、(株)東近江あぐりステーションの「集荷販売機能」やJA全農しがの「園芸の収穫・出荷調製作業を含めた契約栽培」などとの連携により、関係機関が一丸となって取り組みをすすめてまいります。

東近江市八日市地区高収益作物生産目標

品目/年産	8年産	9年産	10年産	将来目標 令和20年
たまねぎ	6.0	10.0	15.0	55.0
にんじん	10.0	12.0	15.0	32.0
小豆(大納言・普通)	11.5	15.0	30.0	82.0

※その他品目も高収益作物として、お勧めできる品目については関係機関と連携し検討してまいります。



【画像提供：東近江市】



全農しが 園芸の収穫・出荷調製作業を含めた契約栽培

全農しがによる「園芸の収穫・出荷調製作業を含めた契約栽培」が令和7年一部の品目ではじまりました。この取り組みについては、**指定特産品目の収穫作業から販売までを一括して全農しがで行い、生産者の労力を軽減し作付面積の拡大を支援する仕組み**となっております。今後、本取り組みの活用提案も含め**JAグループ一体となった支援の実施によって特産品目の生産拡大を実現**してまいります。

園芸の収穫・出荷調製作業を含めた契約栽培の概要

★全農しがが農産物の収穫から出荷調製機能を行い、生産者が農産物の生産に特化するスキームを構築することで園芸品目の生産拡大を図る。



【画像提供：JA全農しが】

戦略5 酪農・畜産振興

5-1 畜種に応じたサポート体制によって生産性と収益性の向上を提案します

1. 厳しい酪農・畜産情勢

酪農において、長引く飼料、燃料や資材価格の高騰、一方で牛乳消費量、価格が伸び悩み経営継続が厳しく離農される件数が増えています。また肉牛でも同様に、子牛価格、物価高騰で生産費が高み、一方で特に和牛肉の消費、販売価格も低調で採算割れする出荷牛も発生しています。養鶏では、家畜伝染病の鳥インフルエンザウィルスの脅威にさらされています。

2. 厳しい情勢を乗り越えるための対策と重点的な取り組み

- (1) 飼料高騰対策
安定的な飼料確保と飼料費抑制に向けた取り組み
- (2) 酪農経営対策
生産性向上への取り組み
- (3) 牛肉嗜好性変化、低コスト生産対策
消費者の求める牛肉づくりと生産費抑制への取り組み
- (4) 健全経営、後継者育成対策
経営相談業務強化への取り組み
- (5) 家畜防疫、畜舎環境改善対策
家畜伝染病等の侵入防止、気候変動による暑熱対策など環境改善への取り組み
- (6) 畜産物消費拡大、ファンづくり対策
地域イベント等を活用した畜産物の消費拡大やファンづくり
- (7) 畜産物ブランド向上対策
ブランド化を目指した取り組み

3. 具体的な取り組み

- (1) 稲・牧草 WCS、稲わらなど自給飼料の生産、供給量の増加と一部販売
品質や価格で不安定な購入飼料の割合を抑えるために取り組みます。

【目標値】稲 WCS、稲わらの JA 流通分の取扱量

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
稲WCS	1,000ロール	1,050ロール	1,100ロール	1,150ロール
稲わら	9,000ロール	9,200ロール	9,300ロール	9,500ロール



- (2) 乳牛供用期間延長、育成牛の事故率低減

乳牛更新費用を抑えるため、また後継乳牛となる育成牛の事故を減らすために取り組みます。

【目標値】乳牛の削蹄頭数、育成牛へのワクチン接種頭数

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
削蹄頭数	1,000頭	1,000頭	1,050頭	1,100頭
ワクチン接種	130頭	140頭	140頭	150頭



酪農・畜産の生産性と収益性向上にチャレンジ

- (3) 牛肉嗜好性の変化への対応、飼育期間短縮などコスト削減
選ばれる牛肉づくり、高騰する生産費を抑制するため
取り組んでいきます。

【目標値】牛肉うま味成分分析、試験的な低コスト生産

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
分析頭数	60頭	80頭	100頭	100頭
低コスト試験	0頭	10頭	30頭	50頭



- (4) 健全経営、後継者育成に向けた生産指導、資金繰り相談
持続可能な農家経営を構築するため取り組んでいきます。

【目標値】重点的に取り組む農家相談件数

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
相談件数	3件	3件	5件	5件



- (5) 鳥インフルエンザなど家畜伝染病の侵入防止、環境改善のための畜舎改修
家畜防疫や環境改善によりリスクの軽減や生産性向上を図るため
取り組んでいきます。

【目標値】畜舎改修件数

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
改修件数	1件	2件	2件	2件



- (6) 乳製品や牛肉等を組合員や地域住民へ販売
組合員には特別価格で販売し、組合員メリットを
感じていただけるように取り組みます。

【目標値】地域イベント等での販売回数

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
販売回数	10回	10回	12回	12回



- (7) 乳製品や牛肉、鶏卵の商品 PR を可視化
グリーン近江産の特徴を消費者に PR し、購入意欲につなげるため
取り組みます。

【目標値】商品化等取組件数

	令和7年実績	令和8年目標	令和9年目標	令和10年目標
取組件数	-	1	1	2

グリーン近江産近江牛
オレイン酸〇〇%



戦略6 販路開拓とブランド化

当 JA は、近江米・近江牛をはじめ全国的評価の高い農産物を強みとして、生産履歴や品質管理の徹底と統一した情報発信によりブランド力の向上を図ります。信頼される産地として付加価値の高い販売につなげていきます。

6-1 有機栽培拡大に取り組みます

JA では、JA グリーン近江オーガニック研究会を設立（令和5年）し、農家組合員とともに有機 JAS 米の栽培にチャレンジしています。

* JA では、この取り組みを地域農業活性化支援事業で支援しています。

有機JAS米取り組み面積（a）

令和8年度	令和9年度	令和10年度
409.9	461.1	665.4



6-2 BS 資材や緑肥を導入した環境こだわり農業のレベルアップ

BS 資材・緑肥の実証取り組み

- 化学肥料や農薬の使用量削減による省力化と環境保全の両立を目指す取り組みを支援
- 土づくりや微量元素の土壌還元など養分循環に寄与する取り組みを支援



6-3 地域の特色を活かした農産品のブランド価値を高めます

地域農業活性化支援による産地化、ブランド化の実践

令和8年～10年重点取り組み

- ・異常気象に対応する新技術の取り組みや新資材の試験
- ・省力化・低コストに向けた新技術の取り組みや新資材の取り組み
- ・地域特産物の産地化・ブランド化の取り組みや地域特産物の広域化の取り組み
- ・労働力確保や後継者確保などの取り組み
- ・農的関係人口の拡充に向けた地域での取り組み



6-4 近江米の輸出による販路拡大に挑戦します

当 JA では米の輸出に取り組み、現在は台湾向けが中心で販売額は限定的です。次期3カ年の農業戦略においても継続的に取り組み、市場動向を見極めながら販路拡大の機会を狙っていきます。



新たな販路開拓やブランド化にチャレンジ

6-5 園芸品目のブランド化に取り組みます

「みおしずく」の取り組み

滋賀県初のオリジナルいちご品種「みおしずく」は令和5年から本格的に生産・販売が開始をされブランド化に向けて、滋賀県・全農・各農協と協力し地域連携部会に参加し、生産者の組織化による安定した生産・出荷体制を整備するとともに、企業と連携した「みおしずく」を使用した商品開発等、販売促進に取り組み滋賀県の品種として知名度アップを目指して普及・生産の拡大を図ります。



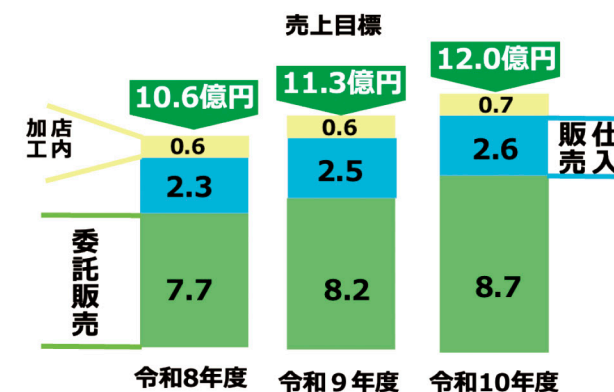
J-GAP 認証の実施取り組み

園芸品目である加工業務用キャベツ及び加工業務用タマネギの生産者35経営体が、JGAP 認証を取得いたしました。JGAP 認証においては、農産物の安全性や環境保全、労働安全などに配慮した生産工程管理の証であり、消費者や取引先からの信頼向上に繋がります。

今後は、認証取得を契機として、まだ GAP に取り組んでいない加工業務用野菜の生産者や他の園芸品目を作付けしている生産者への JGAP 導入を積極的に推進し、地域全体の農業レベルの底上げを図るとともに、認証取得支援や研修会の開催、情報提供などを通じて、生産者が安心して取り組める環境づくりに努めてまいります。

「ファーマーズマーケットきてか～な」を基軸にした地産地消の拡大

「ファーマーズマーケットきてか～な」は地元農産物や農産加工品を消費者へお届けする拠点としての役割を担っております。次期3カ年も「ファーマーズマーケットきてか～な」を基軸に地産地消の拡大をすすめてまいります。また、この度の増築によって売り場面積がおおよそ800㎡となり、県下ナンバーワンの直売所として、さらに多くの農産物や特産品を皆さまにお届けできるよう新規の出荷や更なる生産拡大をお願いいたします。



きてか～な
農と食を結ぶ
「地域と密着するファーマーズマーケット」



令和7年度末よりリニューアルオープン！新たな売場は、若手農業者の農産品や贈答品コーナーとして活用するとともに、既存部分も合わせた県下最大級の売場面積で旬の農産品を消費者の皆様にお届けし、「農家組合員の所得増大」に繋げてまいります。

戦略7 スマート農業の導入による生産性向上と省力化

7-1 省力化と収量・品質確保の両立に向けた提案に取り組みます

持続可能な農業経営のためには、省力化を実現しつつ、収量や品質の向上を達成するための活動に取り組みます

自動水管理の普及・推進

- 地域ぐるみでの水管理の合理化と水資源の有効活用の仕組みを構築する取り組みを推進
- 大規模耕作者における水管理の作業時間短縮、水管理による収量・品質向上に係る取り組みを推進



リゾケアなど新資材による直播栽培の推進

省力化と安定生産を目指し、新技術であるリゾケアを活用した湛水直播の取り組みを拡大します。苗立ちの安定や初期生育の向上を図り、水稻栽培の効率化と生産性向上につなげていきます。

	令和7年産の面積	令和10年産の目標面積
リゾケア (全品種合計)	55 ha	300 ha



乾田直播の実証

管理や作業の省力化を目的に、新たな技術である乾田直播の実証に取り組みます。育苗や田植え作業を省き、作業時間と労力の削減を図るとともに、安定した生産技術の確立を目指します。



再生二期作の実証

需要に応じた米生産のもと、地域の水利も鑑みながら水田の高度利用を目的に再生二期作の実証を継続します。再生二期作によって単収を補い生産力強化につなげていきます。



省力化と収量・品質確保の両立に向けたチャレンジ

スマート農業の普及

- GPSを活用した自動操舵等の普及に向けたJAグループ滋賀によるRTK基地局の運営
- 管内農作業受託の紹介や子会社グリーンサポート楽農による農作業受託によってドローン防除やドローン追肥の施用を推進します。



- Z-GIS、ザルビオの導入による高度な圃場管理

- ザルビオ（省力化と収量・品質の向上の両立）

地力マップ⇒堆肥・土づくり資材散布に活用

生育マップ⇒ヘアリーベッチなどの緑肥との併用、可変追肥

流し込み施肥などの追肥判断に活用

地力マップ



過去の衛星画像の解析から地力を可視化したマップです。

生育マップ



自動的に更新される衛星画像データを元に圃場内の生育状況を可視化したマップです。

【画像提供：JA全農しが】



戦略8 担い手育成・労働力確保

8-1 集落営農法人や大規模経営体の経営持続に向けた支援に取り組みます

集落営農法人は地域の農地や農業資源を活用し、共同で農業経営を行う重要な組織です。その経営を安定させ、持続可能なものとするために、様々な経営相談や支援を行います。

集落営農後継者育成対策の実施

地域農業活性化支援事業による集落営農後継者育成対策の成果の検証と新たな支援の構築

	令和5～7年の合計	令和8年～10年の育成目標
指導後継者	263 人	
免許等取得者数	90 人	実質化された後継者 180人

＊指導後継者…各法人による後継者指導を行った人数
免許等取得者数…大特やドローンなどの資格取得を行った人数
＊実質化された後継者…法人の作業等に参画する次世代の人数



地域に根差したJAならではの農家に寄り添った支援を実施します

- ・TACを中心とした相談窓口機能
- ・行政機関、専門家と連携した多角的支援
- ・地域の優良事例を踏まえた経営支援研修の実施

	令和5～7年の合計	令和8年～10年の活動目標
事業承継活動	8 件	20 件

	令和5～7年の合計	令和8年～10年の活動目標
後継者総点検活動	0	後継者総点検活動 300件



【画像提供:JA滋賀中央会】

その他関連の取り組み

- ・バイトアプリなどの推進によるスポット労働力確保
- ・JA子会社によるインターン制度体制の構築と経営受託の拡大



【画像提供:JA滋賀中央会】



地域農業の後継者対策にチャレンジ

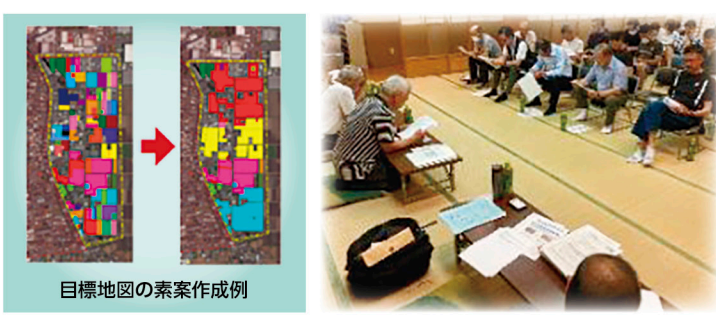
8-2 出向く営農の強化に取り組みます

TAC 活動をはじめ、管内 6 カ所の営農振興センターが出向く営農によって地域特色ある農業振興や地域農業課題対応に取り組みます。



8-3 「地域計画」を活用した集落農業の再編提案

地域計画のブラッシュアップの場を活用し、集落ごとの問題課題に対して再編などの提案を行います。また、集落法人についても法人間連携などの協議を支援します。



地域農業の課題に応じた農談会や座談会、研修会を実施します。

皆様からのご要望により、地域計画の課題解決に向けた座談会や作物生産にかかる勉強会など

JA や行政の担当者とともに対応いたします。

8-4 地域農業活性化支援事業

集落法人の後継者対策や青年農業者支援。スマート農業・新技術の実証・普及。中山間地の特色ある農産物の生産や農村 RMO の取り組みなどを応援します。



営農技術の実践を支援
スマート農業の導入試験
青年農業者支援
集落法人の次世代育成やオペレーター育成を支援
地域農産物支援

【画像提供:JA全農しが】

戦略9 子会社の役割発揮

9-1 子会社の役割発揮に取り組みます

地域農業のサポーター
株グリーンサポート楽農 G S R
green support rakunou

J A子会社である株式会社グリーンサポート楽農では、地域農業のサポーターとして従来からの作業受託の継続に加え、「地域計画」を重視した農業者との連携による経営受託に取り組みます。また、雇用を通じて未来を担う農業者の育成に取り組みます。

1. 作業受託の継続

ドローン防除やトラクター・コンバイン作業、田植えなどの作業受託に引き続き取り組みます。
 また、地域の作業サービス経営体との連携を図ります。

* 利用料金や利用のご相談は、J A営農振興センターを通じて賜ります。

* 受託状況によってはお引き受けできないことがありますのでご了承ください。



2. 地域農業の経営受託

地域や集落との調和を重視する経営受託に取り組みます。
 ～経営受託は以下の考えに基づき農地を借り受け～

- ①「地域計画」の未来を担う農業者への位置づけ
 担い手、集落法人、既存農家との調和を最優先に「**地域計画**」における農業者に位置づけられることを条件に**集落や地域でまとまりある経営受託**を行います。
- ②農地中間管理機構による農地調整・借り受け
 農地の利用権設定については、「地域計画」に基づき**農地中間管理機構の仲介によって農地の調整を受け、借り受け**いたします。
- ③委託集落（者）との役割分担に基づく経営受託



単位：ha

農地の保全管理（畦畔、水）については、委託者である集落や農地の所有者などと話し合い役割分担します。

* 集落で実施する普請や農地水の活動、集落共同作業などは委託者でのご対応をお願いいたします。

		R8	R9	R10
	経営委託			
	米	21.9	24.0	26.4
	麦	6.2	7.2	8.0
	大豆	6.2	7.2	8.0
	飼料用米	5.0	6.0	6.0
	野菜		0.3	0.6
	その他	0.6		
	小計	39.9	44.7	49.0

地域農業のサポートにチャレンジ

地域農業戦略IX

変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり



3. 子会社の強靱な経営基盤づくり

大規模経営のサポートとスマート農業の導入

作業受託による大規模経営のサポート、経営受託の自社借受農地における、Z-GIS やザルビオを活用したスマート農業の実践に取り組み、地域農業を支える強靱な経営基盤づくりに繋がります。

高収益作物生産

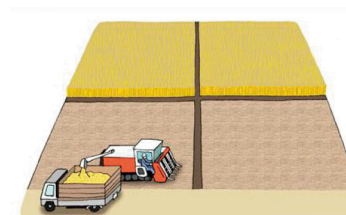
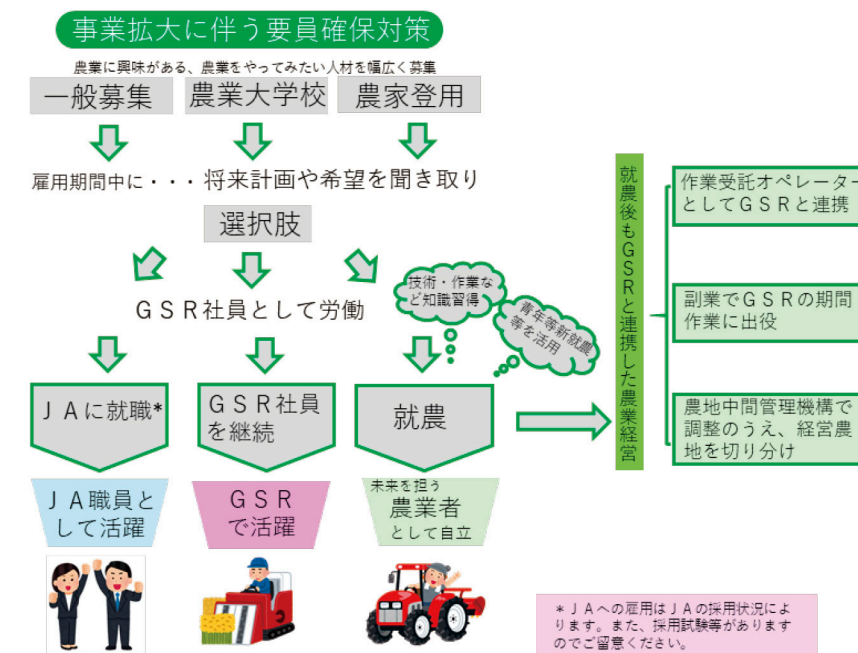
経営受託農地を活用し、より高収益な作物の生産に取り組みます。



4. 未来を担う農業者の育成

～地域農業の主役は「農業者」～未来を担う農業者の育成に取り組みます！

経営受託の拡大にともない、労働力を確保する必要があります。(株)グリーンサポート楽農では、地域農業の主役は「農業者」であるとの考えのもと、**雇用を通じて未来を担う「農業者」の育成に取り組みます。**試用期間中に将来計画や就農に対する希望を聞き取り、J Aと連携して各々の希望に沿った要員の育成に取り組みます。また、就農希望においては、農業技術や農作業といった一連の知識が習得できるよう業務を通じて徹底した実践型の育成に取り組みます。



戦略10 地域農業をささえる購買事業

指導購買の高度化にチャレンジ

10-1 営農指導と一体となった生産資材提案に取り組みます

① Web 注文による購買事業の展開

FarmingPress を使用した予約注文システムの構築・導入を加速させ、申込等手続きの軽減を図ります。
令和8年度にトライアル実施を計画。



② 地域や農業者の課題に応じた商品や作業省力化の提案

構成員の少ない農業法人や作業負担を軽減したい農家に省力化の提案を行います。

例) 流し込み施肥による労力削減

例) JAグループで協力し、ドローンによる追肥散布（全農と協力した施肥体系の確立）



【画像提供:JA全農しが】

③ 新規肥料農薬の試験と新しい商品提案

農家組合員、職員がともに「結果」を生み出し、近隣組合員とも共有できる参加型試験を実施します。



④ 指導購買の充実

職員の知識レベルのベースアップを図り、生産振興の強化と解決策の提案できる人材育成で指導購買の拡充を図ります。

例) 知識確認テストによる、階層別研修の実施で、知識レベルの把握。

例) 資材の特徴や詳細のデータベース化や現場でもスマホで簡単に情報確認が出来るよう環境を整備。

例) 指導+ソリューション（解決策）：生産現場で抱える課題の解決策の提案。



⑤ 「農家組合員の所得増大」に向けた生産費の削減

高止まりしている生産資材に対する価格抑制対策として、仕入時期の見極めと銘柄集約によるスケールメリットの発揮による価格抑制を図り、数量確保による安定供給を徹底します。

超大型規格商品の取り扱いを拡充し、生産コストの低減を図ります。



【画像提供:JA全農しが】

戦略11 地域連携と食育増進

農的関係人口の増大にチャレンジ

地域農業戦略IX
変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり

11-1 地域農業を支えるつながりを創造します

みんながみんなともっとコミュニケーション

●たんぼの学校など学校連携



●地場産品によるギフト商品の開発



●青年部や女性部とのコラボイベント 地産地消イベント



●家庭菜園講座など准組合員参加型イベントや生協と連携した消費者交流イベント



●持続可能な中山間地農業のモデル化 ◎日野桜谷地域農村 RMO をモデルとした取り組み支援



【画像提供:桜谷地域農村RMO推進協議会】

11-2 地域農業を支える 女性の活躍を支援します

●農業女性の懇話会の開催



●個別経営体向け家族経営協定の作成支援



●集落営農の女性リーダー、女性構成員拡大支援事業の創設



行政との連携と目指す姿

行政と連携し地域振興に取り組めます

- ・共通の認識と情報共有を図り、同じ方向に進むことの重要性を念頭に・・・
- ・定期的な意見交換をおこない地域農業の発展に貢献できる積極的な取り組みを推進・提案し「農家所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を農家組合員・行政とともに実現していきます

近江八幡市

- ・津田干拓地果樹団地の生産振興
- ・きてか～なを活用した地産地消、農的関係人口の拡大
- ・近江牛の生産振興とファンづくり



東近江市

- ・東近江市農村振興基本計画【アグリプラン】との連携
- ・国営農地再編整備事業「東近江地区」における野菜等の生産拡大
- ・(株) 東近江あぐりステーションの地域内中規模流通の拡大



日野町

- ・包括連携協定による子育て支援施策等の実施と農業振興
- ・日野菜産地のブランド化生産振興と日野菜産物加工施設の活用
- ・オーガニックビレッジ宣言による有機農業のさらなる推進



竜王町

- ・しが竜王グッドサークル農業との連携
- ・竜王魅力ある農業の創生事業補助金の活用
- ・竜王町バイオマス産業都市構想による耕畜連携の推進



【行政順】

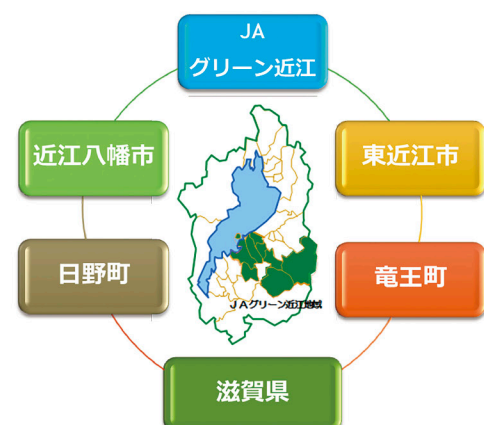
滋賀県

地域プロデュース計画との連携

- ・「守る」から「決める」へ～みんなが描く東近江の次世代農業～
- ・西日本で一番儲かる水田農業の実現
- ・東近江の新たな 50 年をひらく園芸産地づくり



東近江地域農業の発展に向けて



地域と共に 農業と共に

- 地域計画のブラッシュアップ
- 多様な担い手の育成と確保
- 家族農業への再評価と支援体制検討
- 農村環境保全と景観形成活動
- 水田を活用した野菜の生産
- 高収益野菜栽培のサポート
- 競争力を強化した農畜産業
- 中山間地農業への新たな提案

令和 8 年度～ 10 年度 変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり



○気候変動対応

高温耐性品種の作付け拡大により、全国平均並みの 1 等比率の確保
安心して後継者に引き継げる持続可能な農業生産を行える米価の維持

○持続可能な地域農業

後継者、労働力を確保し、安心できる農業生産の展開
特色ある中山間農業の実現や地域で輝く青年農業者の役割を發揮

○特産品目の生産振興

地域特産品による地域活性化ときてか～なによる地元農産物の供給拡大
全農「園芸の収穫・出荷調製作業を含めた契約栽培」やブランド力向上による安定した園芸、畜産生産の確立

○省力化・スマート農業

直播栽培と移植栽培を組み合わせ、省力的で安定した水稲経営の実現
省力化と高品質・高収量生産の両立

○販路開拓とブランド化

気候変動下でも安定した環境こだわり農業やオーガニック栽培
きてか～なを基軸とした地域振興作物やみおしずくの取り組み拡大

○農的関係人口の拡大

「農」ある地域イベントの充実による農業の魅力向上
多様な人材の農業への参画により新たな発想や地域コミュニティの活性化

JA 自己改革基本目標

農家組合員の
所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化



近江八幡宮農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ①試験圃場を設置し、環境変化に対応した生産性向上を目指します
- ②JA 営農担当職員の指導力レベルアップに取り組みます
- ③nimaruJA 等の情報発信ツールを活用したリアルタイム営農指導を行います

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
試験圃場水稻4か所 営農指導員2級8名1級4名 nimaruJA登録190名 年間発信24回	試験圃場水稻4か所 営農指導員2級9名1級4名 nimaruJA登録200名 年間発信24回	試験結果を横展開 営農指導員2級9名1級5名 nimaruJA登録210名 年間発信24回

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けた チャレンジ

- ①園芸品目（特産品目）栽培の次世代への人材育成と確保へ取り組みます
- ②畑作物の収量・品質の安定化に向けた技術実証を行います
- ③市場動向を見据えた畑作物の生産振興に取り組みます

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
農業バイトアプリ登録者の推進 黒大豆・麦類試験圃場2か所 野菜づくり講習会の実施(年2回) 津田干拓果樹選別場を稼働	登録者3名 黒大豆・麦類試験圃場2か所 野菜づくり講習会の実施(年2回) 津田干拓果樹選別場を稼働	登録者5名 試験結果を横展開 販売農家へ誘導 津田干拓果樹選別場を稼働

3. 産地化・ブランド化に 向けたチャレンジ

- ①地域の実情と適地適作の品目提案を行います。
- ②特栽米を中心とし、品種の集約と新品種の産地化を目指します
- ③特産課と連携し、津田干拓果樹団地のブランド化を目指します

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
黒大豆100ha 白大豆(そらシリーズ)の試験栽培 ZR1、にじのきらめき(110ha) こだわり米部会の継続 津田干拓果樹部会の参画	作付け面積維持 品種転換 ZR1、にじのきらめきの作付推進(125ha) こだわり米部会の継続 津田干拓果樹成園化	作付け面積維持 栽培拡大 ZR1、にじのきらめき産地化(140ha) 新品種への取り組み こだわり米部会の継続 直売所等で販売促進

3カ年アクションプラン（行動計画）

4. 担い手確保・労働力確保 など持続可能な農業に 向けたチャレンジ

- ①TACと共に担い手農家の経営支援をサポートします
- ②行政機関と連携し、地域農業の連携と持続可能な農業に取り組みます。
- ③生産部会・青年部・女性部・農政連等のJA組織の活動支援に取り組みます

各年度の行動計画			経営承継の取り組みを記載
令和8年度	令和9年度	令和10年度	
後継者対策、経営支援 集落営農法人連協の活発化 法人間連携、作業受託の検討 JA組織の加入推進 経営承継の取り組み	後継者対策、経営支援 集落営農法人連協の活発化 法人間連携、作業受託 JA組織の加入推進 経営承継の取り組み	後継者対策、経営支援 集落営農法人連協の活発化 法人間連携、作業受託 JA組織の加入推進 経営承継の取り組みを記載	

5. スマート農業と先端技術 による生産性向上と 省力化に向けたチャレンジ

- ①先端技術による生産性の向上を実証いたします
- ②省力化技術を普及し生産性向上と産地化を目指します
- ③スマート農業を活用した農業知識の共有と後継者対策へ取り組みます

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
自動給水栓の導入の検討 リゾケアの実証圃場設置(1軒) ドローン導入の提案(4軒) スマート農機の提案 資格取得補助(4軒)	自動給水栓の実証(2軒) リゾケアの推進(10軒) ドローンの導入 スマート農機の導入(5軒) 有資格者の確保	横展開 横展開 ドローンの幅広い活用 スマート農機の活用 有資格者の確保

6. 農の関係人口 増加に向けたチャレンジ

- ①地域農業の理解を深める取り組みを行います
- ②地域農業のファンづくりに取り組みます
- ③支店行動計画と共に地域活性化につながる活動を支援します

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
野菜づくり教室の開催(年2回) 田んぼの学校の開催 バイトアプリの推進(10軒) ふれあい活動の実施 JA組織と連携した活動 支店と共にイベントの参画と実施	野菜づくり教室の開催(年2回) 田んぼの学校の開催 バイトアプリの利用者の拡大 ふれあい活動の実施 JA組織と連携した活動 支店と共にイベントの参画と実施	野菜づくり教室の開催(年2回) 田んぼの学校の開催 バイトアプリの利用者の拡大 ふれあい活動の実施 JA組織と連携した活動 支店と共にイベントの参画と実施



大中の湖宮農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ①高温耐性品種みずかがみ・きらみずき・にじのきらめき・滋賀82号（ことさんさん）・滋賀酒85号（湖響）への転換
- ②早期栽培米「みずかがみ」の生産拡大（耕畜連携で牛糞堆肥投入と稲わら提供）
- ③「みずかがみ」再生二期作の実証と提案

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①高温耐性品種の提案 にじのらめき143ha 滋賀酒85号（湖響）8ha ②早期栽培米 生産者数8件、面積15ha ③再生二期作の実証1ha	①高温耐性品種の提案 にじのらめき160ha 滋賀酒85号（湖響）20ha ②早期栽培米 生産者数10件、面積20ha ③再生二期作の実証1ha	①高温耐性品種の提案 にじのらめき170ha 滋賀酒85号（湖響）30ha 滋賀82号（ことさんさん）20ha ②早期栽培米 生産者数15件、面積30ha ③再生二期作の実証1ha

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けたチャレンジ

- ①小麦「びわほなみ」収量・品質向上対策（適期播種と苗立ち数の確保と赤カビ病防除の徹底、適期収穫）
- ②特産品目別の安定生産と高品質に向けた取り組み強化
- ③各部会毎に特産品の生産振興を図る

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①収量・品質向上に向けた出向く営農指導の徹底 ②現地巡回指導の強化と各部会との会議(研修会)の開催 ③普及所と連携した生産技術向上と安定生産の指導	①収量・品質向上に向けた出向く営農指導の徹底 ②現地巡回指導の強化と各部会との会議(研修会)の開催 ③普及所と連携した生産技術向上と安定生産の指導	①収量・品質向上に向けた出向く営農指導の徹底 ②現地巡回指導の強化と各部会との会議(研修会)の開催 ③普及所と連携した生産技術向上と安定生産の指導

3. 産地化・ブランド化に向けたチャレンジ

- ①早期栽培米「みずかがみ」産地化とJA直売所(きてか～な)や量販店への販売戦略
- ②特許栽培米部会「にこまる」の作付維持継続
- ③ブランドである安土信長葱・大中ストレリチア・みおしずくの知名度向上と安定生産

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①栽培面積15ha きてか～な「早期米みずかがみ」販売数量200袋 近江牛産地と合わせて耕畜連携で資源循環農業アピール ②生産面積の維持(作付面積10ha) ③PR活動の実施と生産面積の維持・拡大	①栽培面積20ha きてか～な「早期米みずかがみ」販売数量300袋 近江牛産地と合わせて耕畜連携で資源循環農業アピール ②生産面積の維持(作付面積10ha) ③PR活動の実施と生産面積の維持・拡大	①栽培面積30ha きてか～な「早期米みずかがみ」販売数量400袋 近江牛産地と合わせて耕畜連携で資源循環農業アピール ②生産面積の維持(作付面積10ha) ③PR活動の実施と生産面積の維持・拡大

3カ年アクションプラン（行動計画）

4. 担い手確保・労働力確保 など持続可能な農業に向けたチャレンジ

- ①集落営農法人や担い手との話し合い（後継者対策や経営継承・持続可能な営農継続への取組）
- ②JAと農業者同士が一体となった持続可能な地域農業づくりをより一層高める取り組み（大中地域農業者が集う会の会員拡大）
- ③1日農業バイトアプリを活用した労働力確保支援

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①集落営農法人や担い手との話し合い ②大中地域農業者が集う研修会の開催と会員拡大40名(現在34名) ③1日農業バイトアプリの利用者拡大	①集落営農法人や担い手との話し合い ②大中地域農業者が集う研修会の開催と会員拡大45名 ③1日農業バイトアプリの利用者拡大	①集落営農法人や担い手との話し合い ②大中地域農業者が集う研修会の開催と会員拡大50名 ③1日農業バイトアプリの利用者拡大

5. スマート農業と先端技術による生産性向上と省力化に向けたチャレンジ

- ①無人航空機（ヘリ・ドローン）を活用した肥料、農薬散布拡大
- ②ザルビオ（地力・生育マップ）を活用した収量と品質の向上
- ③リゾケア等による直播栽培の拡大と乾田直播の実証（普及拡大）

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①無人航空機(ヘリ・ドローン)による肥料・農薬散布拡大 ②ザルビオの導入支援 ③リゾケア等の直播栽培面積拡大3ha 乾田直播実証 3ha	①無人航空機(ヘリ・ドローン)による肥料・農薬散布拡大 ②ザルビオの導入支援 ③リゾケア等の直播栽培面積拡大5ha 乾田直播実証 3ha	①無人航空機(ヘリ・ドローン)による肥料・農薬散布拡大 ②ザルビオの導入支援 ③リゾケア等の直播栽培面積拡大8ha 乾田直播実証 3ha

6. 農の関係人口 増加に向けたチャレンジ

- ①イベント参画と生協との交流
- ②田んぼの学校開催（食農教育）
- ③nimarujA登録者数拡大

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①各イベントなどへの参画・生協との交流会開催（現地研修・収穫体験など） ②田んぼの学校を開催 ③nimarujA登録者数150名	①各イベントなどへの参画・生協との交流会開催（現地研修・収穫体験など） ②田んぼの学校を開催 ③nimarujA登録者数180名	①各イベントなどへの参画・生協との交流会開催（現地研修・収穫体験など） ②田んぼの学校を開催 ③nimarujA登録者数210名



竜王宮農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ①高温耐性品種の作付推進（にじのきらめき等）
- ②BS 資材の栽培試験
- ③滋賀酒 85 号（湖響）の栽培導入試験
- ④バイオ液肥・堆肥を用いた生産

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①高温耐性品種の作付推進・情報提供 にじのきらめき 29ha、滋賀82号（ことさんさん）1ha ②BS資材の栽培試験 ③滋賀酒85号（湖響）導入・検証 ④バイオ液肥・堆肥を用いた栽培試験	①高温耐性品種の作付推進・情報提供 にじのきらめき 33ha、滋賀82号（ことさんさん）10ha ②BS資材の導入 ③滋賀酒85号（湖響）需要に応じた作付拡大 ④バイオ液肥・堆肥を用いた栽培試験	①高温耐性品種の作付推進・情報提供 にじのきらめき 36ha、滋賀82号（ことさんさん）60ha ②BS資材の検証・評価 ③滋賀酒85号（湖響）需要に応じた作付拡大 ④バイオ液肥・堆肥を用いた栽培体系の確立

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けたチャレンジ

- ①白大豆多収性品種の栽培（そらシリーズ）
- ②BS 資材投入による黒大豆の品質向上（乳酸菌）

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①白大豆多収性品種の栽培試験（そらシリーズ） ②BS資材投入による黒大豆の品質向上試験	①白大豆多収性品種の栽培拡大（そらシリーズ） ②黒大豆へBS資材の導入	①白大豆多収性品種の栽培拡大（そらシリーズ） ②黒大豆へBS資材の導入

3. 産地化・ブランド化に向けたチャレンジ

- ①バイオ堆肥・液肥を用いた耕畜工連携による農産物のブランド化に向けた取り組み（竜王町・ダイハツ工業）
- ②竜の舞（道の駅）・竜おうみ米（生協）の契約販売
- ③竜王黒大豆のブランド化

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①バイオ堆肥・液肥を用いた農産物作付・販売 ②竜の舞（道の駅）・竜おうみ米（生協）の継続販売 ③竜王黒大豆のブランド化推進・生産拡大（0.5ha）	①バイオ堆肥・液肥を用いた農産物作付・販売 ②竜の舞（道の駅）・竜おうみ米（生協）の継続販売 ③竜王黒大豆のブランド化推進・生産拡大（0.5ha）	①バイオ堆肥・液肥を用いた農産物作付・販売 ②竜の舞（道の駅）・竜おうみ米（生協）の継続販売 ③竜王黒大豆のブランド化推進・生産拡大（0.5ha）

3 カ年アクションプラン（行動計画）

4. 担い手確保・労働力確保 など持続可能な農業に向けたチャレンジ

- ①ドローン作業の担い手受託者チームの設立に向けた取り組み
- ②J A ・防除協議会連携

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①ドローン利用状況の実態調査 ②防除依頼情報連携	①地元担い手による作業チームの設立検討 ②受付集約検討	①防除協議会との連携作業受委託 ③受付窓口統一

5. スマート農業と先端技術 による生産性向上と 省力化に向けたチャレンジ

- ①湛水直播の推進による省力化（リゾケア）
- ②ドローン散布普及拡大（農薬・肥料・直播）

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①湛水直播の推進・検証（リゾケア） ②ドローン散布普及拡大（農薬・肥料・直播）	①湛水直播の面積拡大（リゾケア）（1ha） ②ドローン散布普及拡大（農薬・肥料・直播）	①湛水直播の面積拡大（リゾケア）（1ha） ②ドローン散布普及拡大（農薬・肥料・直播）

6. 農の関係人口 増加に向けたチャレンジ

- ①田んぼの子による農業体験参画
- ②竜王独自の消費者交流（稲研・農夢竜王 21）
- ③nimaru JA（LINE）による情報発信

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①「たんぼのこ」による農業体験参画 ②竜王独自の消費者交流（稲研・農夢竜王 21） ③nimaru JA（LINE）の登録者数拡大（新規10名）	①「たんぼのこ」による農業体験参画 ②竜王独自の消費者交流（稲研・農夢竜王 21） ③nimaru JA（LINE）の登録者数拡大（新規10名）	①「たんぼのこ」による農業体験参画 ②竜王独自の消費者交流（稲研・農夢竜王 21） ③nimaru JA（LINE）の登録者数拡大（新規10名）



日野営農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ①高温耐性品種への転換
- ②気候変動対策に向けた営農指導
- ③ケイ酸加里やマルチサポートの有用性の実証試験

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①みずかがみ 230ha、にじのきらめき 50haの提案 ②土壌診断による土づくり相談や葉色等を基にした営農指導 ③ケイ酸加里やマルチサポートの有用性の実証	①みずかがみ 230ha、にじのきらめき 55ha、滋賀82号(ことさんさん) 8haの提案 ②土壌診断による土づくり相談や葉色等を基にした営農指導(継続・拡大) ③ケイ酸加里やマルチサポートの有用性の実証	①みずかがみ 230ha、にじのきらめき 60ha、滋賀82号(ことさんさん) 50haの普及 ②土壌診断による土づくり相談や葉色等を基にした営農指導(継続・拡大) ③ケイ酸加里やマルチサポートの有用性の確立

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けたチャレンジ

- ①「近江日野産日野菜」の反収増大・所得向上
- ②「近江日野産日野菜」の生産拡大
- ③「わたむきねぎ」の品質向上
- ④「近江日野産日野菜」と「わたむきねぎ」を有機的に取り組み所得向上

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①機械化による省力化の実証(一斉播種・一斉収穫) ②作付面積目標8ha ③「わたむきねぎ」の品質向上、規格の遵守を図る ④「わたむきねぎ」「近江日野産日野菜」による輪作の提案	①機械化による省力化の確立(一斉播種・一斉収穫) ②作付面積目標8ha ③「わたむきねぎ」の品質向上、規格の遵守を図る(継続) ④「わたむきねぎ」「近江日野産日野菜」による輪作の提案	①機械化による省力化の普及(一斉播種・一斉収穫) ②作付面積目標8ha以上 ③「わたむきねぎ」の品質向上、規格の遵守を図る(継続) ④「わたむきねぎ」「近江日野産日野菜」による輪作の普及拡大

3. 産地化・ブランド化に向けたチャレンジ

- ①日野町産米の活用により日野米のおいしさを発信
- ②良食味米、こだわったお米づくり
- ③「はさまメンマ」等、地域特産物の掘り起こしや新規特産物の創生
- ④「近江日野産日野菜」(GI)のブランド力強化

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①行政、販売先と連携し、求められる米づくりへの取り組み ②「きらみずきグループ」で食味分析を実施し食味向上。また、「オーガニック米」への取り組み(食味分析40件) ③地域特産物の聴取による掘り起こし、新規特産物の創生に向けた品目選定(雄松、オリーブ、和ぐるみなど) ④県内におけるGI登録がある品目を中心に連携を図る仕組みを検討	①行政、販売先と連携し、求められる米づくりへの取り組み(継続拡大) ②「きらみずきグループ」で食味分析を実施し食味向上。また、「オーガニック米」への取り組み(食味分析45件) ③地域特産物の聴取による掘り起こし、新規特産物の創生に向けた提案 ④県内におけるGI登録がある品目を中心に連絡協議会を検討・発足	①行政、販売先と連携し、求められる米づくりへの取り組み(継続拡大) ②「きらみずきグループ」で食味分析を実施し食味向上。また、「オーガニック米」への取り組み(食味分析50件) ③地域特産物の聴取による掘り起こし、新規特産物の作付け ④県内におけるGI登録がある品目を中心に連絡協議会による活動

3カ年アクションプラン (行動計画)

4. 担い手確保・労働力確保など持続可能な農業に向けたチャレンジ

- ①地域、行政との連携強化
- ②集落営農法人や担い手の連携強化
- ③TACと連携した事業承継支援
- ④バイトアプリ等の普及

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①地域計画を活用し、課題解決に対して相談、提案を行う ②日野地区における集落営農法人連絡協議会の設立検討(日野地区におけるJAの出資営農法人7団体を対象) ③認定農業者へ事業承継支援体制の周知、相談機能の確立 ④生産者への提案(5件)	①地域計画を活用し、課題解決に対して相談、提案を行う(継続) ②日野地区における集落営農法人連絡協議会と担い手の関わり方の検討 ③認定農業者へ事業承継支援体制の周知、相談機能の確立(継続) ④生産者への提案・普及(7件)	①地域計画を活用し、課題解決に対して相談、提案を行う(継続) ②日野地区における集落営農法人連絡協議会と担い手の連携 ③認定農業者へ事業承継支援体制の周知、相談機能の確立(継続) ④生産者への提案・普及(10件)

5. スマート農業と先端技術による生産性向上と省力化に向けたチャレンジ

- ①オーガニック研究会の普及
- ②直播技術の研究と普及
- ③耕畜連携の強化
- ④スマート農業への取り組み支援

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①技術の確立に向けた実証と会員の普及・拡大(反収目標6.5俵) ②リゾケア、湛水直播、乾田直播に関する知識習得・向上(直播推進協議会会員10名5ha) ③耕畜連携による堆肥のペレット化の検討 ④ドローンによる防除、追肥の施用の検討	①技術の確立に向けた実証と会員の普及・拡大(反収目標7.0俵) ②リゾケア、湛水直播、乾田直播の普及拡大(直播推進協議会会員10名10ha) ③耕畜連携による堆肥のペレット化の検討・実証 ④ドローンによる防除、追肥の施用の検討、普及	①技術の確立に向けた実証と会員の普及・拡大(反収目標7.5俵) ②リゾケア、湛水直播、乾田直播の普及拡大(直播推進協議会会員10名15ha) ③耕畜連携による堆肥のペレット化の検討・実証(継続) ④ドローンによる防除、追肥の施用の検討、普及(継続)

6. 農の関係人口増加に向けたチャレンジ

- ①Instagram・営農NEW等を活用し、新たな層への情報提供
- ②各部会等、JA組織の活動をサポート
- ③教育文化活動による地域との連携強化
- ④小中学校へ「日野菜」や「お米」を基軸に関心度の熟成
- ⑤「桜谷地域農村RMO推進協議会」の活動支援、住民自治から関係自治への転換

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
①Instagram等を用いて営農情報や活動状況を発信(フォロワー数800件) ②組織間の連携を図れる体制づくりの構築 ③女性部組織を中心に地域との関わりを強化する。(サテライト+、野菜づくり教室の実施。) ④「たんぼの学校」や「日野菜学習」「あぐりスクール」の実施 ⑤「桜谷地域農村RMO推進協議会」をロールモデルとして地域の課題解決に向けた支え合いシステムの検討や「お米のオーナー事業」の支援等	①Instagram等を用いて営農情報や活動状況を発信(フォロワー数900件) ②組織間の連携を図る活動 ③女性部組織を中心に地域との関わりを強化する。(継続) ④「たんぼの学校」や「日野菜学習」「あぐりスクール」の実施 ⑤「桜谷地域農村RMO推進協議会」をロールモデルとして地域の課題解決に向けた支え合いシステムの検討、実証や「お米オーナー事業」の継続的支援	①Instagram等を用いて営農情報や活動状況を発信(フォロワー数1,000件) ②組織間の連携を図る活動(継続) ③女性部組織を中心に地域との関わりを強化する。(継続) ④「たんぼの学校」や「日野菜学習」「あぐりスクール」の実施 ⑤「桜谷地域農村RMO推進協議会」をロールモデルとして地域の課題解決に向けた支え合いシステムの実施や「お米オーナー事業」の継続的支援



東近江中央営農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ①高温耐性品種転換や地力向上による収量品質安定に向けた取組
- ②水稻追肥（耐暑肥）を当たり前にするための取組
- ③水管理や除草剤の効果を最大限に引き出すための取組

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①高温耐性品種への作付提案 ・にじのきらめき ⇒ 80ha ②追肥の情報収集・試験 ・肥料試験（流し込み、ドローン）3件 ③水管理、除草体系提案・実証 ・除草体系提案 3件	①高温耐性品種への作付誘導 ・にじのきらめき ⇒ 90ha ・滋賀82号（ことさんさん）、滋賀酒85号（湖響）⇒ 30ha ②追肥 試験検証 ・肥料試験（流し込み、ドローン）3件 ③水管理、除草体系提案・実証 ・除草体系提案 5件	①高温耐性品種への作付誘導 ・にじのきらめき ⇒ 100ha ・滋賀82号（ことさんさん）、滋賀酒85号（湖響）⇒ 50ha ②追肥 試験検証、普及 ・肥料試験（流し込み、ドローン）3件 ③水管理、除草体系提案・実証 ・除草体系提案 10件

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けた チャレンジ

- ①国営土地改良事業に沿った高収益作物の生産振興と省力・低コスト栽培の確立
- ②品目に応じた高温対策と防除（雑草・害虫）体系の提案
- ③特産担当職員の知識向上と営農指導力強化

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①作物別栽培の試験 ・玉ねぎ、人参、小豆を主に試験 ②BS資材、防除資材体系等試験・提案 ・BS資材試験3件 提案3件 ・防除資材体系提案3件 ③スキルUP研修実施 ・年間6回	①作物別栽培の試験・検証 ・玉ねぎ、人参、小豆を主に検証 ②BS資材、防除資材体系等試験・提案 ・BS資材試験5件 提案10件 ・防除資材体系提案5件 ③スキルUP研修実施 ・年間6回	①作物別栽培の検証・確立 ・玉ねぎ、人参、小豆を主に確立 ②BS資材、防除資材体系等確立 ・BS資材普及 ・防除資材体系普及 ③スキルUP研修実施 ・年間6回

3. 産地化・ブランド化に向けた チャレンジ

- ①玉ねぎ・人参・キャベツ・小豆を中心とした地域振興作物の面積拡大
- ②農業関係機関との連携に向けた取り組み
- ③国営土地改良事業を見据えて、JA 施設整備（園芸施設、集荷場）に向けた協議

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①ロードマップに沿った面積拡大 ・面積拡大 玉ねぎ⇒6ha 人参⇒10ha ②全農「園芸の収穫・出荷調整作業を含めた契約栽培」方式の検証 ・玉ねぎ⇒2.5ha 人参⇒2ha ③園芸施設、集荷場の整備検討	①ロードマップに沿った面積拡大 ・面積拡大 玉ねぎ⇒10ha 人参⇒12ha ②全農「園芸の収穫・出荷調整作業を含めた契約栽培」方式の検証 ・玉ねぎ⇒3ha 人参⇒2.5ha ③園芸施設、集荷場の整備検討	①ロードマップに沿った面積拡大 ・面積拡大 玉ねぎ⇒15ha 人参⇒15ha ②全農「園芸の収穫・出荷調整作業を含めた契約栽培」方式の面積拡大 ・玉ねぎ⇒5ha 人参⇒4ha ③園芸施設、集荷場の整備検討

3カ年アクションプラン（行動計画）

4. 担い手確保・労働力確保 など持続可能な農業に 向けたチャレンジ

- ①集落営農法人や個人担い手の経営力強化に向けた支援
- ②TAC・県と協力して、法人間連携のモデル作成と運営支援
- ③農作業支援サービスの活用提案

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①アクションプランの作成・実践 ・10年後を見据えた計画作成 ・法人、担い手の事業承継支援 ②法人間連携の仕組みの検討 ・検討中の連携をモデルとして作成 ③Z-GIS・ザルビオ、バイトアプリ等の提案 ・提案件数 各5件	①アクションプランの作成・実践 ・10年後を見据えた計画作成と実践 ・法人、担い手の事業承継支援 ②法人間連携の仕組みの検討 ・検討中の連携をモデルとして作成 ③Z-GIS・ザルビオ、バイトアプリ等の提案 ・提案件数 各5件	①アクションプランの実践 ・10年後を見据えた持続可能な農業実践 ・法人、担い手の事業承継支援 ②法人間連携の仕組みの確立 ・検討中の連携をモデルとして普及支援 ③Z-GIS・ザルビオ、バイトアプリ等の提案 ・提案件数 各5件

5. スマート農業と先端技術 による生産性向上と 省力化に向けたチャレンジ

- ①新たな水稻栽培体系の実証と提案
- ②大規模ほ場におけるスマート農業の実証
- ③地力増進を活かした栽培技術（省力化）の提案

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①水稻直播栽培（リゾケア）の実証 ・面積拡大 ⇒ 85ha ・ドローン直播の実証1件 ②RTK基地の設置検証（関係機関と協力） ・特産農機にて検証 ③緑肥＋ドローン可変施肥の試験・検証 ・試験実施1件	①水稻直播栽培（リゾケア）の面積拡大 ・面積拡大 ⇒ 100ha ・ドローン直播の実証2件 ②RTK基地の設置検証（関係機関と協力） ・特産農機にて検証 ③緑肥＋ドローン可変施肥の試験・検証 ・試験実施1件	①水稻直播栽培（リゾケア）の面積拡大 ・面積拡大 ⇒ 120ha ・ドローン直播の普及拡大 ②RTK基地の設置検証（関係機関と協力） ・特産農機にて検証 ③緑肥＋ドローン可変施肥普及 ・提案3件

6. 農の関係人口 増加に向けたチャレンジ

- ①各種団体（地域・青年部・女性部等）とのコラボイベント開催
- ②地域特産品を使用した商品（加工品）の開発・販売
- ③農政連盟支部活動の盟友拡大に向けた取組支援

各年度の行動計画		
令和8年度	令和9年度	令和10年度
①ふれあい地域活動・食農教育に通じるイベントを各関係団体と相談企画し、開催をします。 ②地域特産品をPRするための商品（加工品）の開発を検討します。 ③支部盟友数の拡大 5名	①ふれあい地域活動・食農教育に通じるイベントを各関係団体と相談企画し、開催をします。 ②地域特産品をPRするための商品（加工品）の開発販売を検討します。 ③支部盟友の拡大 10名	①ふれあい地域活動・食農教育に通じるイベントを各関係団体と相談企画し、開催をします。 ②地域特産品をPRするための商品（加工品）の販売を実施します。 ③支部盟友の拡大 15名



東近江湖辺営農振興センター



地域農業戦略に基づく地域での重点戦略

1. 気候変動等環境変化への対応と生産性向上に向けたチャレンジ

- ① 水稻高温耐性品種へのシフトチェンジ
- ② B S 資材の試験と積極的な活用
- ③ 営農指導員の知識向上と出向く営農による生育ステージに応じた指導

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 既存の品種から高温耐性品種へ作付け導入推進と地力対策にじのきらめき 80ha ② BS資材の研修と水稻をメインとした資材の試験・データ収集 ③ 土壌診断の必要性の周知や土壌医等の現場で役立つ資格取得を積極的に行う	① 高温耐性品種を主とした作付面積へと見直し・滋賀82号(ことさんさん)試験田情報の提供にじのきらめき 90ha 滋賀82号(ことさんさん) 7ha ② 引き続きデータの収集と B S 資材の本格導入に向けた資材選定 ③ 土壌診断処方箋を用いた圃場ごとの資材選定	① 滋賀82号(ことさんさん)の作付け導入推進(10ha) ② B S 資材をスタンダード化した資材設計 ③ 土壌診断処方箋を用いた圃場ごとの資材選定・提案

2. 畑作物の生産振興 高品質・高収量に向けた チャレンジ

- ① 小麦栽培における中後期の雑草防除の徹底
- ② 青立ち対策による大豆収量 UP と緑肥の活用
- ③ 近江黒ダイヤの更なる生産振興

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① タデ、エンドウ類の徹底防除のための現地巡回を強化 ② 青立ち対策と麦あと地力増進作物(ベッチ・レンゲ)の作付け圃場選定 ③ 近江黒ダイヤの作付け面積の増加(8.5ha)と栽培管理の徹底	① タデ、エンドウ類の徹底防除のための現地巡回を強化(継続) ② 青立ち対策と麦あと地力増進作物(ベッチ・レンゲ)の作付け提案 ③ 近江黒ダイヤの作付け面積の増加(9.0ha)と品質向上・新規生産者拡大へのPR活動	① タデ、エンドウ類の徹底防除のための現地巡回を強化(継続) ② 青立ち対策と麦あと地力増進作物(ベッチ・レンゲ)の作付け拡大 ③ 近江黒ダイヤの作付け面積の増加(9.5ha)と品質向上・新規生産者拡大へのPR活動

3. 産地化・ブランド化に向けたチャレンジ

- ① 近江黒ダイヤのブランド化に向けた知名度向上
- ② 販売先とのつながりを意識した求められるコメづくり
- ③ 地域特産物の定着化と掘り起こし

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 地域特産である近江黒ダイヤのPR活動強化(販促イベント)と部会化・加工品に向けて ② 結びつき米の品質・収量向上につながる取組強化 ③ 既存農業者の紹介制度による地域特産物(黒エダマメ、小菊)の定着化と将来性のある品目の選定(ブドウ・梨・桃)	① 地域特産である近江黒ダイヤのPR活動強化(販促イベント) ② 結びつき米の品質・収量向上につながる取組強化 ③ 紹介制度の活用による選定品目の生産振興と地域特産化へ向けた働きかけ	① 地域特産である近江黒ダイヤのPR活動強化(販促イベント) ② 結びつき米の品質・収量向上につながる取組強化 ③ 選定品目の生産振興と規模拡大

3 カ年アクションプラン (行動計画)

4. 担い手確保・労働力確保など持続可能な農業に向けたチャレンジ

- ① 人手不足を補うためのバイトアプリやスマート化促進
- ② 担い手間連携の橋渡し役
- ③ TAC と連携した事業承継支援

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 労働力不足を補えるようバイトアプリやスマート農業理解を示す働きかけ ② 10年先を見越した中での担い手間連携の提案 ③ 認定農業者の事業承継支援体制の周知	① バイトアプリ(5件)、スマート農業の普及拡大へ向けた実践デモの企画 ② 担い手間連携協議の場を提供 ③ 認定農業者の事業承継支援体制の実行(全体の10%)	① バイトアプリ(10件)、スマート農業の本格導入に向けた支援 ② 担い手間連携協議の場を提供(継続) ③ 認定農業者の事業承継支援体制の実行(全体の20%以上)

5. スマート農業と先端技術による生産性向上と省力化に向けたチャレンジ

- ① 直播技術(リゾケア・乾田直播)の知識習得と生産拡大
- ② 自動水管理システムの導入促進
- ③ 全農と連携した ZGIS・ザルビオの導入促進

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① リゾケア・乾田直播に関する研修会の積極的参加と職員の知識向上 ② 自動水管理システムの紹介・デモ機貸出 ③ ZGIS・ザルビオ導入に向けたサポート	① リゾケア・乾田直播の普及拡大(10ha) ② 自動水管理システムの普及拡大(法人向け)(3経営体) ③ ZGIS・ザルビオ導入に向けたサポート(3経営体)	① リゾケア・乾田直播の普及拡大(継続) ② 自動水管理システムの普及拡大(個人向け)(3経営体) ③ ZGIS・ザルビオ導入に向けたサポート(5経営体)

6. 農の関係人口増加に向けたチャレンジ

- ① 「田んぼの学校」を通じて子供たちへの農業に対する理解を深める
- ② 教育文化活動のさらなる発展と地域住民との関わり強化
- ③ 集落営農法人・認定農業者の後継者問題解決に向けた取り組み

各年度の行動計画

令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 「田んぼの学校」での食農教育を通じた農業・J A アピール活動 ② 女性部とのさらなる連携強化・野菜づくり教室の開催(座学年2回) ③ TAC と連携し集落内後継者不足の実態把握	① 「田んぼの学校」での食農教育を通じた農業・J A アピール活動 ② 新規女性部会員の増加に向けた働きかけ・野菜づくり教室(現地開催) ③ 未来を見据えた集落内後継者不足の解決に向けた働きかけ	① 「田んぼの学校」での食農教育を通じた農業・J A アピール活動 ② 地域住民参加型イベントを企画・新規女性部会員の増加に向けた取組 ③ 未来を見据えた集落内後継者不足の解決に向けた協議の場に参画

令和 8 年度～令和 10 年度

地域農業戦略Ⅸ

変化に挑み次代へつなぐ地域農業づくり



グリーン近江農業協同組合

<経営理念>

私たちは、**人**と**自然**とのかかわりを大切にし、
食を守り**地域**に愛される**JAグリーン近江**をめざします。



大切な農業機械の盗難に注意しましょう

- ① 田畑に機械を放置しない
- ② 保管した倉庫は必ず施錠する
- ③ ワイヤー等でハンドルロックを行う



農作業マナーを守りましょう

道路に泥を落としたり、水路や河川に
濁水を流さないようにしましょう